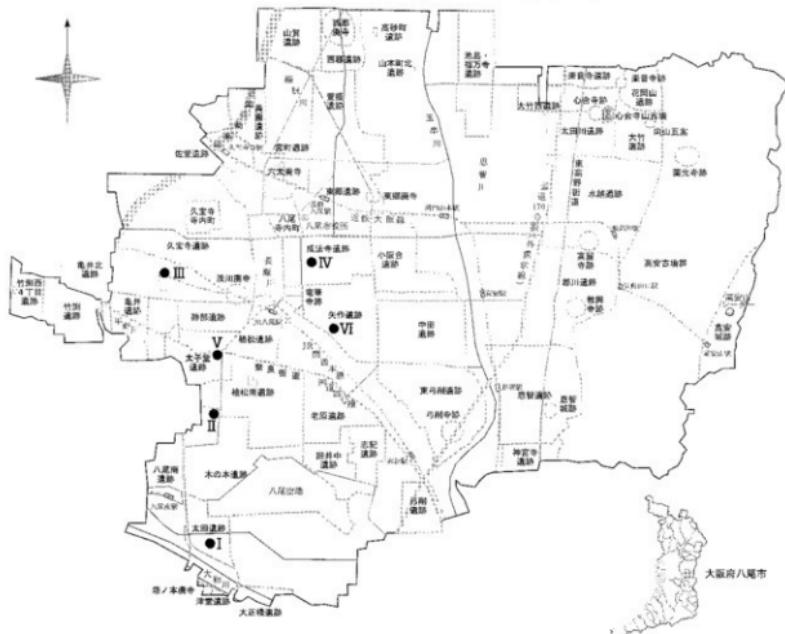


- I 太田遺跡（第12次調査）
- II 木の本遺跡（第21次調査）
- III 久宝寺遺跡（第79次調査）
- IV 成法寺遺跡（第24次調査）
- V 太子堂遺跡（第15次調査）
- VI 矢作遺跡（第8次調査）

2012年

財団法人 八尾市文化財調査研究会

- I 太田遺跡（第12次調査）  
 II 木の本遺跡（第21次調査）  
 III 久宝寺遺跡（第79次調査）  
 IV 成法寺遺跡（第24次調査）  
 V 太子堂遺跡（第15次調査）  
 VI 矢作遺跡（第8次調査）



2012年

財團法人 八尾市文化財調査研究会

## はしがき

八尾市は大阪府の東部に位置し、旧大和川が形成した河内平野の中心部にあたります。八尾市は古くから人々の生活の場として栄えていた地域であり、現在でもそれらの先人が残した貴重な文化遺産が数多く存在しております。

近年、都市開発が進み各種土木工事等が増加するなか、これらの埋蔵文化財を破壊から守ること、また記録保存し後世に伝承することが我々の責務であると認識する次第であります。

本書は、平成22・23年度に八尾市内で行った公共事業に伴う調査の報告をまとめたものであります。内訳としては3件の発掘調査の他、開発に先立って実施した遺構確認調査3件、計6件の調査成果が収録されています。本書が地域史、ひいては日本史解明の一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、多くの関係諸機関および地元の皆様方に、多大な御協力をいただきましたことを心から厚く御礼申し上げます。

平成24年3月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 西浦昭夫

## 例　　言

1. 本書は、財團法人八尾市文化財調査研究会が平成22・23年度に実施した公共事業に伴う発掘調査・遺構確認調査の成果報告を収録したものである。
1. 本書作成の業務は、各現地調査終了後に着手し、平成24年3月をもって終了した。
1. 本書に収録した報告は、下記の目次のとおりである。
1. 本書の執筆・構成・編集は当調査研究会 坪田真一が行った。
1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の1(平成8年7月発行)・八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布地図』(平成22年度版)をもとに作成した。
1. 本書で用いた標高の基準は東京湾標準潮位(T.P.)である。
1. 本書で用いた方位は座標北(国土座標第VI系〔日本測地系〕)を示している。
1. 遺構名は下記の略号で示した。  
　土坑 - SK 溝 - SD ピット - SP 自然河川 - NR
1. 遺物実測図の断面表示は、須恵器が黒、その他を白とした。
1. 土色については『新版標準土色帖』1997年後期版 農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所色票監修を使用した。
1. 各調査に際しては、写真・カラースライド・実測図を、後世への記録として多数作成した。各方面的な幅広い活用を希望する。

## 目　　次

### はしがき

### 序

I	太田遺跡 第12次調査(O O T 2011-12).....	1
II	木の本遺跡 第21次調査(S K 2010-21).....	9
III	久宝寺遺跡 第79次調査(K H 2011-79).....	19
IV	成法寺遺跡 第24次調査(S H 2011-24).....	29
V	太子堂遺跡 第15次調査(T S 2011-15).....	41
VI	矢作遺跡 第8次調査(Y H 2011-8).....	49

報告書抄録

# I 太田遺跡 第12次調査 (OOT 2011-12)

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市太田三丁目183番地で実施した大正小学校校舎耐震補強及び給食調理場他1棟増築に伴う遺構確認調査報告書である。
1. 本書で報告する太田遺跡第12次調査(OOT2011-12)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づくもので、八尾市と財団法人八尾市文化財調査研究会の間で、八尾市教育委員会を立会者として締結した契約により、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成23年12月22日～12月26日(外業実働2日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約12.25m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、梶本潤一・芝崎和美・竹田貴子・田島宣子の参加を得た。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

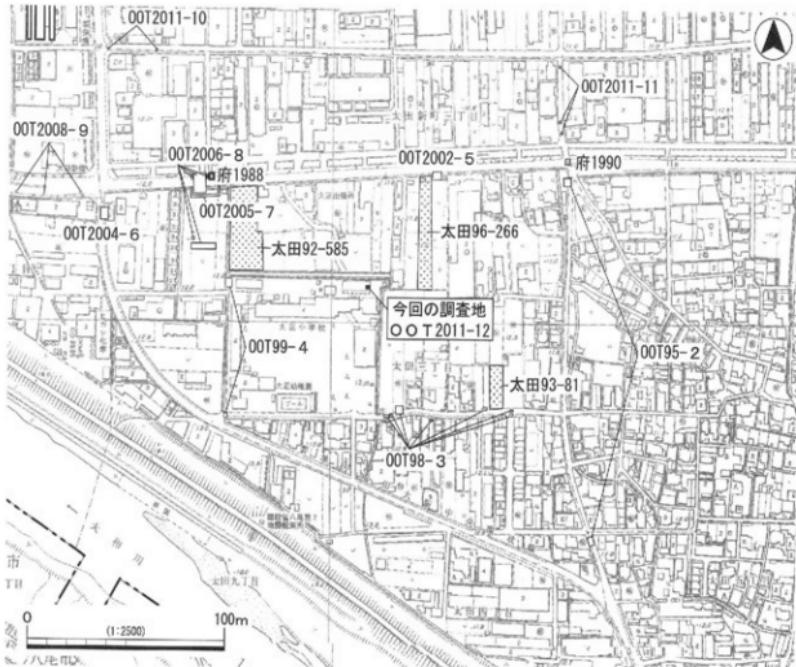
## 本　文　目　次

第1章 はじめに.....	1
第2章 調査概要.....	2
第1節 調査の方法と経過.....	2
第2節 基本層序と出土遺物.....	2
第3節 検出遺構と出土遺物.....	3
第3章 まとめ.....	5

## 第1章 はじめに

太田遺跡は八尾市南部に位置する弥生時代～中世に至る複合遺跡である。現在の行政区画では、太田3・4・9丁目、太田新町1・3丁目がその範囲とされている。地理的には南から伸びる羽曳野丘陵の先端部と、北側に広がる旧大和川が形成した沖積地との接点部に位置しており、南部には現在の大和川が西流している。周辺では、北側に木の本遺跡、西側に八尾南遺跡、東側に大正橋遺跡、南側には大和川を挟んで津寺遺跡が存在する。

今回の調査地は遺跡範囲のほぼ中央部に位置している。周辺では公共下水道工事に伴う小規模な発掘調査や遺構確認調査が、大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当調査研究会により実施されている。まず東部のOOT95-2、OOT2011-11、太田93-81では、弥生時代末～古墳時代の遺構が検出されている。北側の太田96-266で検出された弥生時代末～古墳時代初頭の遺構は、焼失した竪穴住居の可能性が指摘されており注目される。太田92-585では平安時代～鎌倉時代の井戸・小穴等の検出により、該期の居住域の存在が確認されている。また府1988やOOT2006-8では、縄文時代～中世の遺構・遺物を検出した他、旧石器時代の地層から石器も出土している。



第1図 調査地位置図

## 第2章 調査概要

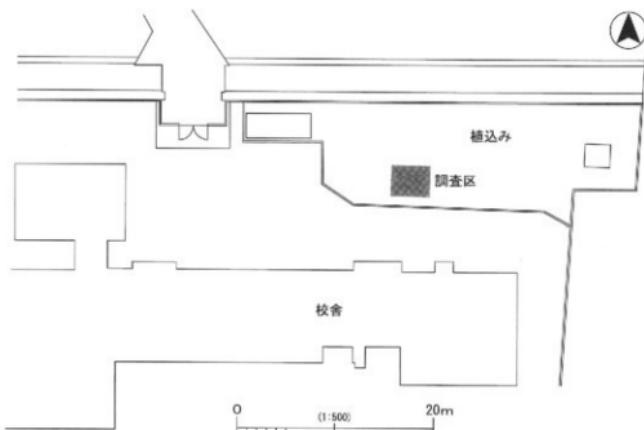
### 第1節 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市太田三丁目183番地で実施した大正小学校校舎耐震補強及び給食調理場他1棟増築に伴う遺構確認調査で、当調査研究会が太田遺跡内で行った第12次調査(OOT2011-12)である。

調査地は1箇所(東西約3.9m×南北約3.2m)で、総面積は約12.25m<sup>2</sup>を測る。

調査は現地表(約T.P.+12.5m)下約1.2mまでを機械掘削し、以下約3.0mまでについて機械・人力掘削併用により調査を実施した。

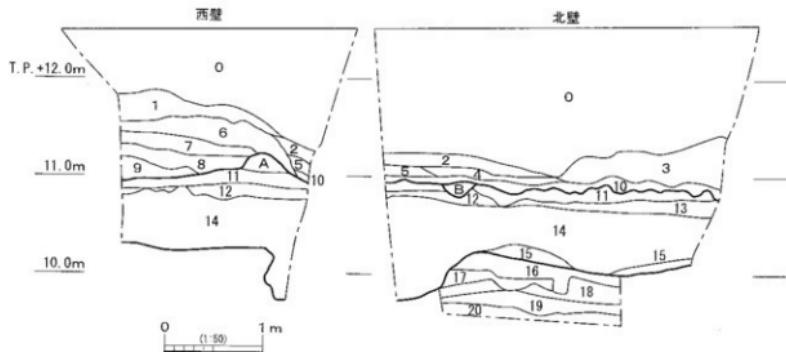
調査では北約120mに位置する八尾市街区多角点(20C85:T.P.+12.040m)を標高の基準とした。



第2図 調査区位置図

### 第2節 基本層序と出土遺物

0層は盛土、及び搅乱。1層は搅拌された旧耕土で畑の作土と思われる。2~5層は北部で見られた作土、6・7層は南部で見られた作土である。南が高く、北が低い耕作段差が認められる。8~10層は第1面の水田作土にあたる。11・12層は土壤化層で、作土の可能性もある。11層からは須恵器片・土師器片・丸瓦片が出土した。11層上面が第2面である。13層は14層の土壤化部分と捉えられる。14層はシルト～極細粒砂の互層状を呈する水成層で、洪水砂であろう。15層も水成層と考えられる。16~20層は湿地性堆積で、植物遺体や炭酸鉄を含む。16層は土壤化しており暗色を呈する層相で、上面が第3面である。



## O. 盛土・擾乱

1. 10YR5/2灰黃褐色極細粒砂～細粒砂混シルト 搅拌作土(鳥糞?)
2. 2.5Y5/1黃灰色シルト質粘土 搅拌作土
3. 10YR6/2灰黃褐色極細粒砂～細粒砂混シルト Fe斑 搅拌作土
4. 5Y6/1灰色極細粒砂～細粒砂多混粘土質シルト 搅拌作土
5. 10Y6/1灰色シルト質粘土 搅拌作土
6. 10YR6/2灰黃褐色極細粒砂～細粒砂混シルト Fe斑 搅拌作土
7. 7.5Y5/1灰色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土 Fe斑 搅拌作土
8. 7.5Y5/1灰色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土 Fe斑 搅拌作土
9. 7.5Y5/1灰色細粒砂～中粒砂混シルト質粘土 Fe斑 作土?
10. 2.5Y6/1黃灰色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土 Fe斑 搅拌作土(第1面作土)
11. 2.5Y6/1黃灰色シルト質粘土ブロック混極細粒砂～細粒砂 土壌化層 作土? 上面第2面
12. 5GY5/1オリーブ灰色シルト質粘土ブロック混細粒砂 土壌化層 作土?
13. 2.5Y6/4いぶい黄色シルト質粘土混極細粒砂～中粒砂 Fe斑 土壌化層
14. 7.5Y6/1灰色シルト～極粗粒砂互層 細かい植物遺体 水成層(洪水砂) S D301・302埋土
15. 2.5GY5/1オリーブ灰色シルト質粘土ブロック混シルト～極細粒砂 水成層 S D302埋土
16. 7.5Y3/1オリーブ黑色粘土 植物遺体 湿地性水成層(土壌化層?) 上面第3面
17. 10Y4/1灰色シルト質粘土 炭酸鉄 多 湿地性水成層
18. 5GY6/1オリーブ灰色シルト質粘土 嵌融鉄 湿地性水成層
19. 7.5Y6/2灰オリーブ色粘土 Fe斑 湿地性水成層
20. 7.5GY7/1明緑灰色粘土 湿地性水成層

## 畦畔101層土

- A. 5Y6/1灰色シルト質粘土 S D201
- B. 5Y6/1灰色極細粒砂～中粒砂ブロック混シルト質粘土 S P201
- C. 2.5Y4/1黄灰色粘土 ブロック状 S P202
- D. 10YR4/1褐灰色極細粒砂混シルト質粘土

第3図 断面図

## 第3節 検出遺構と出土遺物

## &lt;第1面&gt;

水田面にあたり、畦畔1条(畦畔101)、及び8箇所で杭を検出した。時期は近世であろう。

## 畦畔101

東西方向に延びる畦畔で、盛土(A)により構築されている。規模は上幅約40cm・下幅約70cm・高さ最大20cmを測る。水田作土は畦畔南側が基本層序8・9層、北側が同10層である。なお畦畔の北側に沿う状況で8本の杭が打設されている。遺物は水田作土から時期不明の須恵器壺片、土師器片が少量出土した。

〈第2面〉

ピット2個(S P 201・202)、溝1条(S D 201)を検出した。

S P 201

北西角に位置し、平面形は東西42cm・南北48cmのやや楕円形で、深さ約15cmを測る。断面逆台形で、埋土はブロック状の単一層である。遺物は出土していない。

S P 202

平面形は東西32cm・南北40cmのやや楕円形で、深さ約10cmを測る。断面逆台形で、埋土はブロック状の単一層である。遺物は出土していない。

S D 201

南北方向に直線的に延びる溝で、幅約20cm・深さ約10cmを測る。断面逆台形で、埋土はブロック状の単一層(B)である。遺物は出土していない。

〈第3面〉

溝2条(S D 301・302)を検出した。

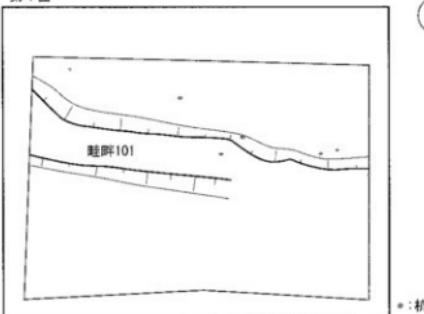
S D 301

南北方向に延びる溝で、やや蛇行しており、北部では西に屈曲する可能性がある。規模は検出長約2.1m・幅約80cm・深さ約50cmを測る。断面形状は逆台形～方形で、埋土は基本層序14層が落ち込む状況である。遺物は出土していない。

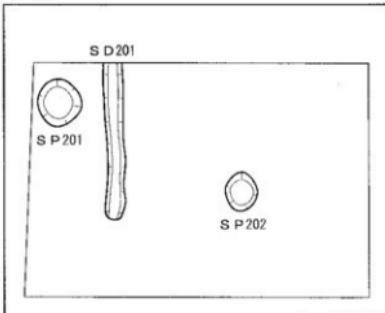
S D 302

東西方向の溝と考えられ、弧状を成す南肩の一部を検出したのみで、詳細は不明である。規模は検出長約1.8m・深さ12cm以上を測る。埋土はS D 301と同じく基本層序14層が落ち込む状況であるが、下位には同15層が見られる。西部でS D 301と合流する可能性もある。遺物は出土していない。

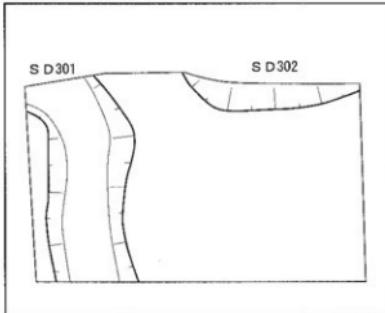
第1面



第2面



第3面



第4図 平面図

## 第3章 まとめ

今回の調査では、第1面で近世の耕作面、第2面で居住域に伴うと考えられる時期不明のピット・溝、第3面では洪水砂により埋没した溝2条を検出した。

第2面の時期については、周辺の調査成果から古墳時代中期末～中世が考えられるが、詳細は不明である。

第3面では溝2条を検出した。時期については、北部調査地において同じく洪水砂により埋没した弥生時代後期の溝を確認しており、レベル的にもほぼ等しい。また西方の八尾南遺跡域においても、洪水砂により覆われた弥生時代後期の生活面が確認されている。これらのことから第3面の時期は弥生時代後期である可能性が高いと言えよう。

### 参考文献

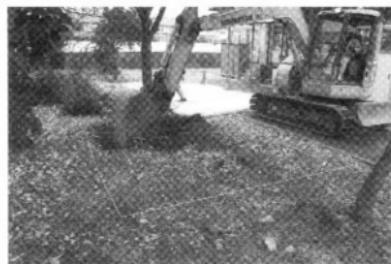
- ・西村公助1996「IV 太田遺跡第2次調査(OOT95-2)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告53』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・吉野野1994「4. 太田遺跡(93-81)の調査」『八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書 I』八尾市文化財調査報告29 平成5年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・酒 斎1994「3. 太田遺跡(92-585)の調査」『八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書 I』八尾市文化財調査報告29 平成5年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・酒 斎1997「3. 太田遺跡(96-266)の調査」『八尾市内遺跡平成8年度発掘調査報告書 I』八尾市文化財調査報告36 平成8年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・福田英人1989『八尾南遺跡－旧石器出土第3地点－』大阪府文化財調査報告書第36報』大阪府教育委員会
- ・西村公助2007「II 太田遺跡(第8次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告104』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・岡本茂史・森屋美佐子・他2008『八尾南遺跡 大和川改修(高規格堤防)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)大阪府文化財センター調査報告書第172集』(財)大阪府文化財センター



調査地(西から)



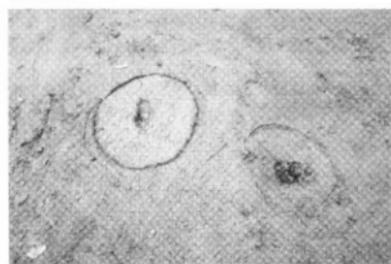
調査地(南西から)



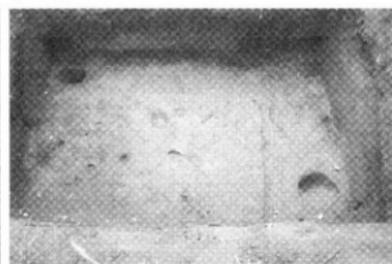
機械掘削(西から)



第1面(東から)



第1面 杭(東から)



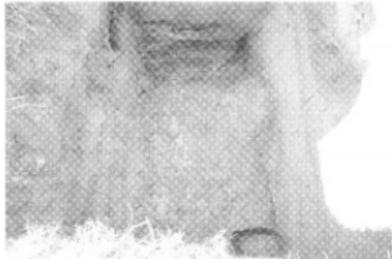
第2面(北から)



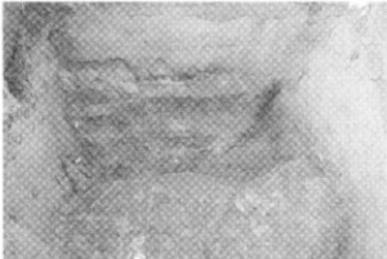
第2面 SP 201(南から)



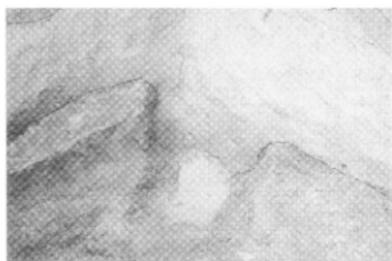
第2面 SP 202(南から)



第3面(東から)



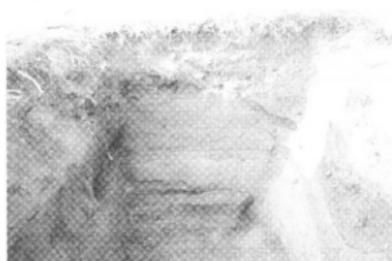
第3面 SD301(東から)



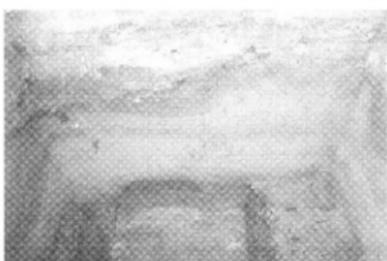
第3面 SD301北壁



東壁



西壁



北壁



調査状況(東から)



調査状況(南西から)



## II 木の本遺跡 第21次調査（SK2010-21）

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市南木の本三丁目1番1号で実施した防災公園街区整備事業（八尾市南木の本三丁目地区）に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する木の本遺跡第21次調査（SK2010-21）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会と独立行政法人都市再生機構西日本支社、財団法人八尾市文化財調査研究会の三者による協定に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が独立行政法人都市再生機構西日本支社から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成22年11月24日～平成22年12月17日（外業実働14日）に、成海佳子を調査担当者として実施した。調査面積は約116m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、飯塚直世・梶本潤二・芝崎和美・竹田貴子・田島宣子・徳谷尚子・永井律子・村井俊子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後隨時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
　　遺物実測－伊藤静江、その他－坪田真一
1. 本書の執筆・編集は、調査担当者による埋蔵文化財概要報告書を基に坪田が行った。

## 本 文 目 次

第1章 はじめに.....	9
第2章 調査概要.....	10
第1節 調査方法.....	10
第2節 基本層序と出土遺物.....	10
第3節 検出構造と出土遺物.....	14
第3章 まとめ.....	15

## 第1章 はじめに

木の本遺跡は八尾市南西部に位置し、八尾空港とその西側一帯、現在の行政区画では木の本1～3、南木の本2～9、空港1丁目がその範囲とされている。地理的には河内平野の南西部、旧大和川水系の平野川左岸の沖積地上に位置し、東側に田井中遺跡・老原遺跡、西～南側には八尾南遺跡・太田遺跡が隣接する他、北側には太子堂遺跡・植松遺跡・植松南遺跡といった平野川流域に展開する遺跡群が存在する。

当遺跡発見の契機は、昭和56(1981)年に八尾市教育委員会が南木の本4丁目で実施した試掘調査で、弥生時代中期前半～古墳時代後期の遺物包含層が確認されたことによる。そして続く発掘調査(市80)では弥生時代中期前半、古墳時代前期・中期の遺構が検出された。昭和57・58(1982・1983)年度には、八尾空港内の整備事業に伴い、当研究会が第1次調査を実施し、平安時代の条里水田の広がりが確認された。その後も八尾空港北側の昭和沢の川・平野川の河川改修工事に伴う調査や、下水道工事等に伴う小規模な調査が大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当研究会により継続的に実施され、当遺跡は弥生時代前期以降の複合遺跡であることが確認されている。

今回の調査地は遺跡範囲西端にあたる。周辺での調査成果を概観すると、南東部では大阪府教育委員会により平野川改修工事に伴う調査(府1998～2000)が実施されており、古墳時代初頭～近世の集落遺構が確認されている。また南部の第3次調査(S K83-3)では古墳時代前期～中期の掘立柱建物・遺物包含層を検出している他、北東部に近接する第16次調査(S K2009-16)で出土した弥生時代後期～古墳時代前期の銅鏡は、遺存状況が良好な資料で特筆される。



第1図 調査地位置図

## 第2章 調査概要

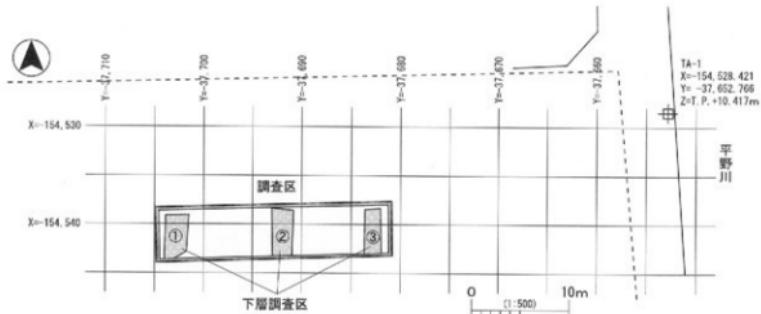
### 第1節 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市南木の本三丁目1番1号(大阪府立八尾南高校跡地)で実施した防災公園街区整備事業(八尾市南木の本三丁目地区)に伴う調査で、当調査研究会が木の本遺跡内で行った第21次調査(S.K.2010-21)である。

調査地は耐震性貯水槽設置部分で、平面形は東西約23.4m×南北約5.0mの長方形を呈し、面積は約116m<sup>2</sup>を測る。

調査は、まず第1次調査として現地表(T.P.+10.5m前後)下2.0m前後を機械掘削し、以下の0.2m前後について人力掘削で実施した。第2次調査としては、第1次調査終了面から1.2m前後を機械掘削し、以下の0.2m前後について人力掘削で実施した。その後下層確認調査として南北約5.0m×東西約2.5mのトレーナチを3箇所(下層トレーナチ①～③)設定し、機械・人力掘削併用で約0.8mについて調査を実施した。

調査では工事使用の基準点(X=-154,528.421, Y=-37,652.766, H=T.P.+10.417m)を使用し、座標・標高の基準とした。



第2図 調査区設定図

### 第2節 基本層序と出土遺物

0層：盛土・搅乱。

1層：黒灰色礫混粘土質シルト。旧耕土。T.P.+9.7～9.3m

2層：暗青灰色粗粒砂混粘土質シルト。T.P.+9.5～9.4m。層厚約20cm。全域に広がる近世の作土で、近世陶磁器細片を含んでいる。

3層：青灰色粗粒砂混粘土質シルト。T.P.+9.3～9.2m。層厚約20cm。全域に広がり、東部では中世土師器(皿他)細片、瓦器(羽釜、椀他)細片が出土した。

4層：暗灰色～暗青灰色礫混粘土質シルトのブロック。T.P.+9.1～9.0m。層厚10～30cm。3層をブロック状に含む淘汰不良の作土で、東部には見られず、西部ほど層厚を増す。

3・4層は中世～近世の作土と考えられる。

5層：淡黄灰色粘土質シルト。T.P.+9.2～8.8m。層厚10～20cm。西部が低く、東部では上面で起伏が認められる。

6層：灰褐色粘土質シルト。酸化マンガン含む。T.P.+8.8～8.6m。層厚0～20cm。

7層：淡褐色粘土質シルト。酸化鉄含む。T.P.+8.6～8.4m。層厚10～20cm。

5～7層は酸化マンガンや酸化鉄の沈着が見られ、作土の可能性が高い。時期は中世頃と考えられるが詳細は不明である。

8層：灰色礫混粘土。T.P.+8.4m。層厚10～20cm。

9層：灰色粘土質シルト。T.P.+8.4～8.2m。層厚10～20cm。

10層：青灰色粘土。T.P.+8.3～8.1m。層厚10～30cm。上面が第1面で、東部が高い。

11層：青灰色極細粒砂～粗粒砂混粘土。T.P.+8.2～8.0m。層厚10～20cm。

8～11層は攪拌された作土の可能性が高い。時期は古代～中世頃と考えられる。11層以下からは遺物は出土していない。

12層：灰色粘土。粘性強い。T.P.+8.1～7.8m。層厚10～20cm。湿地性堆積と考えられる。

13層：黒灰色粘土。植物遺体を多量に含む。T.P.+7.9～7.7m。層厚10～20cm。

14層：灰色粘土。植物遺体を少量含む。T.P.+7.8～7.6m。層厚10～35cm。東部では見られず、中央付近では落ち込む状況が認められる。

15層：灰色粘土・極細粒砂・植物遺体の互層。T.P.+7.8～7.4m。層厚0～40cm。北東角で見られた。

16層：灰色シルト～粗粒砂の互層。T.P.+7.8～6.9m。層厚0～40cm。東部で見られた。

17層：灰色粗粒砂。T.P.+7.5m。層厚0～40cm。東部で見られた。

18層：白灰色粗粒砂・灰色粘土質シルト・植物遺体の互層。T.P.+7.5m。層厚25～65cm。

13～18層は層厚60～90cmを測る一連の湿地性堆積～河川堆積～洪水砂と考えられる。東部ほど層厚が増しており、東側に河川の存在が考えられる。また15・16層の堆積状況からは、調査区東端を流心とする南から北へ流れる一時期の河川の存在が考えられる。

19層：暗褐色粘土。T.P.+7.1～7.0m。層厚10～25cm。上面が第2面。

20層：暗褐色粘土。T.P.+6.9m。層厚0～20cm。

当層以下は下層確認トレチにおいて確認した。

21層：暗青灰色粘土。T.P.+6.8～6.7m。層厚10～25cm。

19～21層は湿地性堆積と考えられ、層厚は最大50cmを測る。19・20層は暗色を呈し、土壤化している可能性がある。

22層：灰色粗粒砂。T.P.+6.7m。層厚0～30cm。

23層：青灰色極細粒砂混粘土質シルト。T.P.+6.6～6.4m。層厚10～25cm。

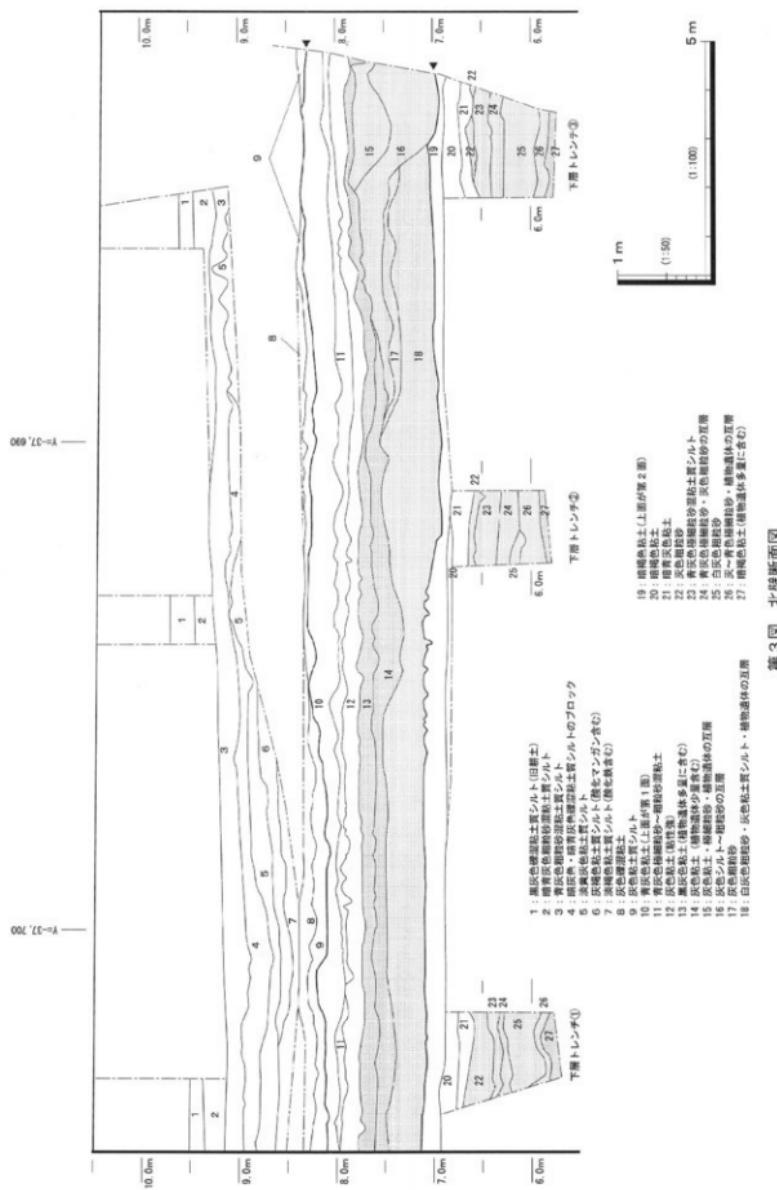
24層：青灰色極細粒砂・灰色粗粒砂の互層。T.P.+6.4～6.3m。層厚5～20cm。

25層：白灰色粗粒砂。T.P.+6.3m。層厚0～40cm。

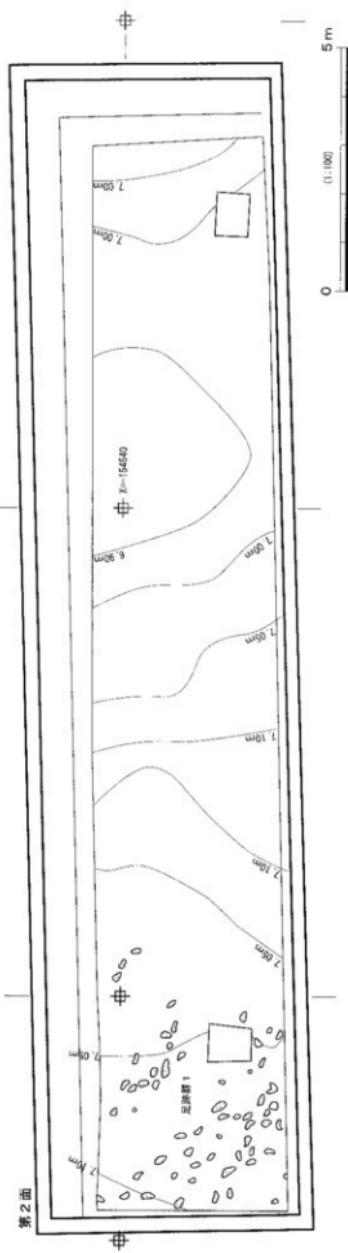
26層：灰～青色極細粒砂・植物遺体の互層。T.P.+6.2～5.9m。層厚10～30cm。

22～26層は一連の河川堆積と考えられ、層厚は最大90cmを測る。

27層：暗褐色粘土(植物遺体多量に含む)。T.P.+5.8m。層厚15cm以上。沼沢地状堆積。



第3図 北西断面図



第4図 平面図

### 第3節 検出遺構と出土遺物

#### 〈第1面〉

10層青灰色粘土上面(T.P.+8.1~8.3m)で、土坑1基(SK101)を検出した。また10層は水田作土の可能性が高く、調査区中央部では畦畔状遺構(畦畔状遺構1)を検出したが、明確に畦畔であるとは断定できなかった。10層からは奈良~平安時代の須恵器壺細片、平安時代頃の土師器椀、須恵器片が出土しており、第1面の時期は平安時代頃と考えられる。また同じく作土と考えられる上位の8・9層からは、土師器、瓦器碗細片、黒色土器片が出土している。

#### SK1

南東部で検出した土坑で、平面形は橢円形に近い不整形を成す。規模は東西約65cm×南北約90cm、深さ約35cmを測る。断面は方形に近い逆台形を呈し、埋土はブロック状の單一層である。遺物は出土していない。

#### 畦畔状遺構1

南北方向に延びる畦畔状遺構で、規模は幅約1.5mを測る。また中央付近の西側には、直交方向に延びる幅0.5m程度の畦畔状遺構が取り付いている。これらは盛土による構築ではない。当遺構の西・東側については平坦面は見られず、西側が深さ20cm、東側が15cm程度の浅い落ち込み状を呈している。

#### 10層出土遺物

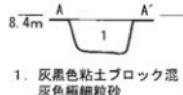
1・2を図化した。共に土師器椀で、1は口縁部~体部、2は底部の小片である。小片のため明確ではないが、形態等から時期は概ね10世紀頃に比定されよう。

#### 〈第2面〉

13~18層は古墳時代~奈良時代の河川・沼沢地で、河川底となる19層上面(T.P.+7.0~7.2m)では、ヒトの足跡群(足跡群1)を検出した。足跡群1は調査区西部に見られ、南東から北西に歩いたような状況が認められた。

#### 〈下層調査〉

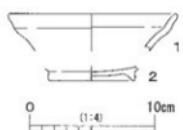
22層以下(T.P.+6.7m以下)で河川堆積を、また27層以下(T.P.+5.9m以下)で沼沢地状堆積を確認した。周辺の調査成果から、古墳時代以前のものと考えられる。



1. 灰黑色粘土ブロック混  
灰色極細粒砂



第5図 SK1断面図



第6図 第10層出土遺物

## 第3章 まとめ

調査では、第1面で平安時代～鎌倉時代の水田の可能性のある地層を確認した。北の第20次調査地においてもT.P.+8.6m前後で古代～中世の作土を検出しており、当地一帯には当該期の生産域が広がっていたものと考えられる。

第2面では西部でヒトの足跡群が見られた。東の第16次調査でも第2面(T.P.+7.2m)で同じく足跡群を検出しており、レベル的にもほぼ合致することから同一面と捉えられよう。層位的にみて時期は古墳時代～奈良時代と考えられるが、当時は湿地帯が広がっており、集落間を行き来する際の足跡群と想定できる。

第2面以下については自然堆積層が続いており、生活面は確認されなかった。第16次調査ではT.P.+6.8mで古墳時代初頭～前期頃の土壤化層を確認しており、落ち込みからは銅鏡が出土している。20・21層付近が当時の地層に相当すると考えられるが、この集落域は当地にまでは及んでいない可能性が高いといえる。

### 参考文献

- ・原田昌則・成海佳子1983「第3章 木の本遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告2』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・藤沢真依・他1999「木の本遺跡発掘調査概要・III-平野川改修工事に伴う発掘調査-」大阪府教育委員会
- ・横田明・岩瀬透1999「木の本遺跡発掘調査概要・IV-1級河川平野川改修工事に伴う発掘調査-」大阪府教育委員会
- ・藤川道子2001「木の本遺跡発掘調査概要・V-1級河川平野川改修工事に伴う発掘調査-」大阪府教育委員会
- ・成海佳子・原田昌則1984「I-1木の本遺跡」『昭和58年度事業概要報告 (財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2011「III 木の本遺跡第16次調査(S K2009-16)」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告132」財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2011「II-1-(9)木の本遺跡第20次調査(S K2010-20)」「平成22年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告」財団法人八尾市文化財調査研究会



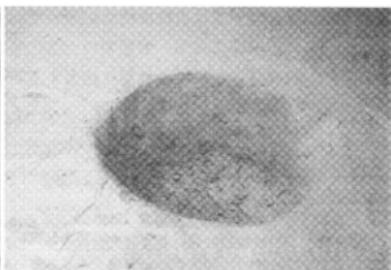
調査地近景（東から）



機械掘削状況（南東から）



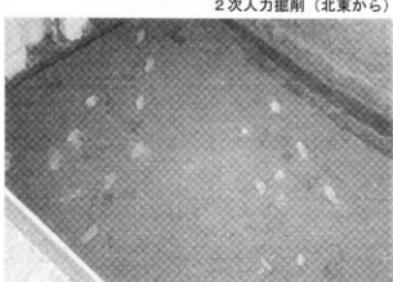
1次人力掘削状況（南西から）



第1面SK1（南西から）

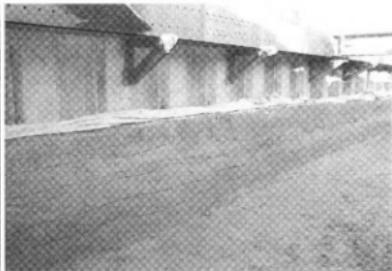


第1面全景（北東から）





北壁精査（北西から）



北壁（北西から）



下層トレンチ①掘削（北東から）



下層トレンチ①西壁・北壁（北東から）



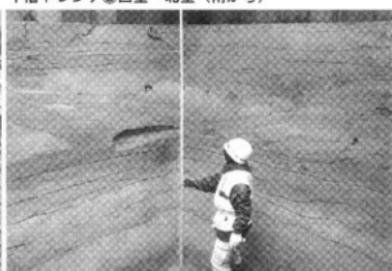
下層トレンチ壁面実測（南東から）



下層トレンチ②西壁・北壁（南から）



下層トレンチ③掘削（南から）



下層トレンチ③北壁・東壁（南西から）

### III 久宝寺遺跡 第79次調査 (K H2011-79)

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市龍華町2丁目地内で実施した、防液堤等築造工事に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する久宝寺遺跡第79次調査(KH2011-79)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づくもので、八尾市と財団法人八尾市文化財調査研究会の間で、八尾市教育委員会を立会者として締結した契約により、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 調査は当調査研究会 西村公助(1区)・坪田真一(2~4区)が担当した。
1. 現地調査は、平成23年4月19日~6月14日(実働11日)に実施した。調査面積は約38m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査には飯塚直世・市森千恵子・伊藤静江・梶本潤二・芝崎和美・竹田貴子・田島宣子・村井俊子が参加した。
1. 内業整理は現地調査終了後に着手して平成24年3月をもって終了した。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

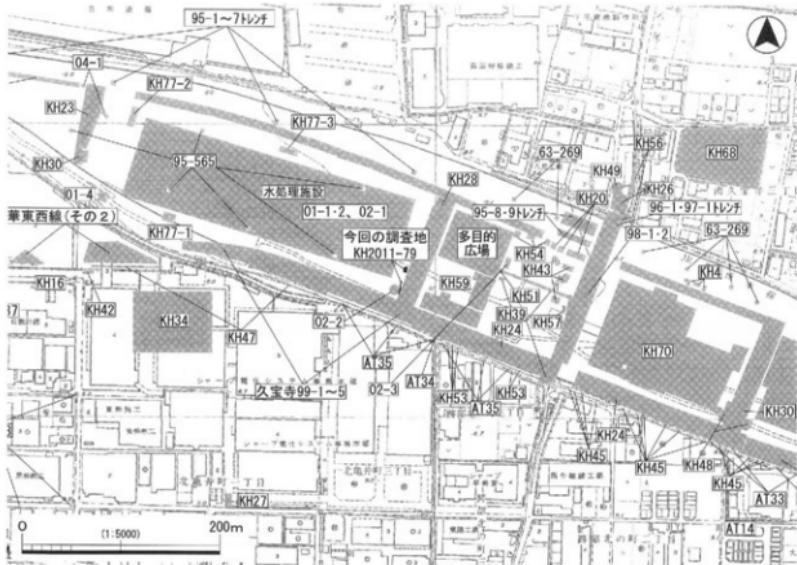
## 本　文　目　次

第1章 はじめに.....	19
第2章 調査概要.....	20
第1節 調査方法.....	20
第2節 基本層序と出土遺物.....	20
第3節 検出遺構と出土遺物.....	22
第3章 まとめ.....	24

# 第1章 はじめに

久宝寺遺跡は、古大和川の主流であった古長瀬川左岸の低位沖積地に位置する縄文時代晚期～近世の複合遺跡である。大阪府八尾市の北西部に位置し、現在の行政区画では八尾市久宝寺1～6、北久宝寺1～3、西久宝寺、南久宝寺1～3、神武町、北亀井1～3、龍華町1・2、渋川町1～7、及び東大阪市大蓮東5、大蓮南2一帯の東西1.8km・南北1.7kmがその範囲にあたる。当遺跡の周辺には、北東に佐堂遺跡、東に宮町遺跡・八尾市内町遺跡・成法寺遺跡、南に亀井遺跡・跡部遺跡、西に加美遺跡(大阪市)が隣接している。

当遺跡は、昭和10年に八尾市久宝寺5丁目で実施された道路工事中に、弥生土器や土師器・須恵器、そして丸木舟の残片が出土したことが発見の契機となった。その後、昭和55～61年にかけて(財)大阪文化財センター(現、財团法人大阪府文化財センター。以下府センター)によって実施された近畿自動車道建設に伴う発掘調査により、縄文時代晚期～近世の複合遺跡であることが判明した。また今回の調査地である旧国鉄竜華操車場跡地においては、昭和63年以降、府センター、八尾市教育委員会、当調査研究会によって継続的に調査が実施されている。今回の調査地はこの竜華操車場のほぼ中央南端に位置しており、西部や南・西侧道路は府センターによる水処理施設調査地・02-2調査地・竜華東西線調査地、当調査研究会第28次調査地となっている。水処理施設調査地では古墳時代初頭～前期の墳墓が60基以上検出されており特筆される。



第1図 調査位置図

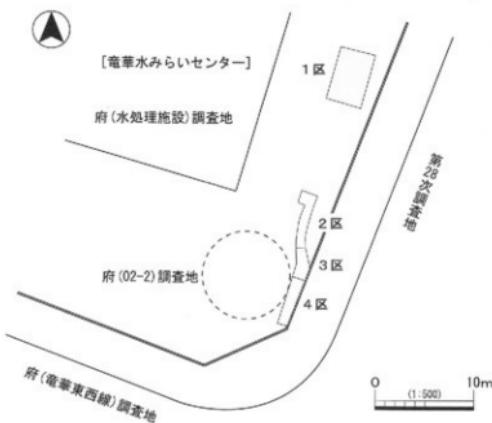
## 第2章 調査概要

### 第1節 調査方法

調査区は防液堤部分(1区)、人孔2箇所及び管路部分(2~4区)に分れており、1区から順に調査を実施した。なお2~4区については、南から機械掘削を開始したところ、地下構造物(府センター02-2調査地擁壁)が認められたため、当初の設計位置よりやや東に調査地を移動させての調査となっている。

掘削についてはまず現地表面(T.P.+8.2~8.3m)から0.7~1.4mを機械により掘削した。そして以下の工事掘削深度であるT.P.+6.3m前後までを人力掘削により調査を実施した。

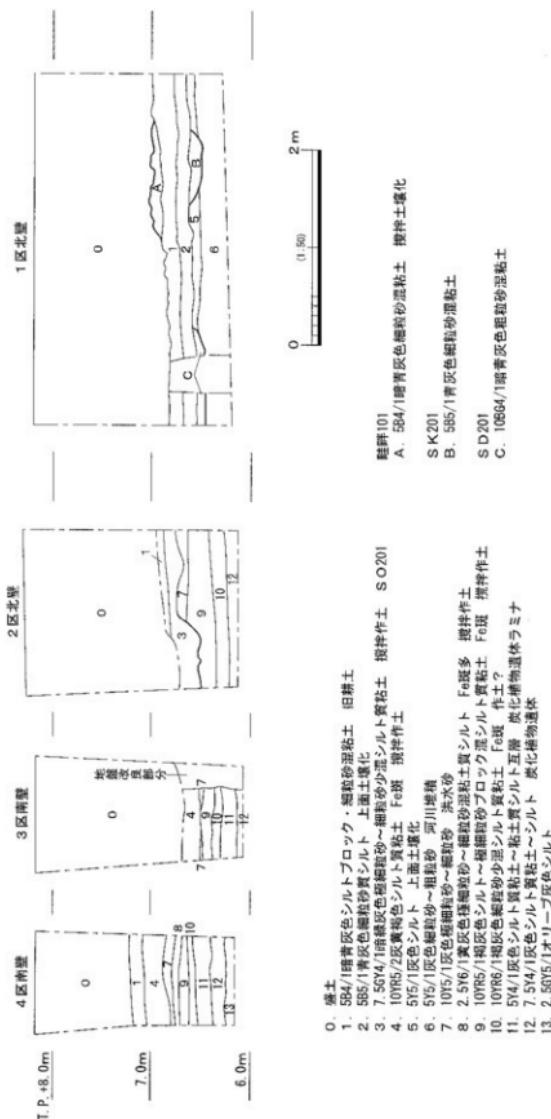
調査では、1区北東部に設置されている工事使用的ベンチマーク(KBM-4:T.P.+8.428m)を標高の基準とした。遺構名は遺構略名+面+二桁番号とした(例-SK101は第1面1番目の土坑)。



第2回 調査区位置図

### 第2節 基本層序と出土遺物

0層は竜華操車場造成に伴う盛土層で層厚1.2mを測る。レンガや近代の瓦が出土した。1層は調査地全域に見られる旧耕土である。T.P.+7.0~7.2mで、南部がやや高い。レンガや近世陶磁器、土師器、瓦が出土した。上面が第1面である。2層は1区で見られ、上面は搅拌され土壤化する。中世~近世の土師器(羽釜等)、須恵器(束縛系鉢)、瓦器(椀等)、陶磁器(備前・丹波・伊万里・唐津等)、瓦が出土した。3層は2区、4層は3・4区で見られた搅拌された作土である。5層は1区で見られ、上面は搅拌され土壤化する。中世~近世の土師器、瓦器、瓦、磁器(伊万里)が出土した。2区3層下面、1区5層上面が第2面である。6層は1区で見られた砂層で、河川堆積である。第28次調査N R 201・202に相当する。7層以下は2~4区で確認した。7層の砂層は洪水砂であろう。8~10層はFe斑を多く含む層相で、作土と考えられる。上面が第3面で、水



第3図 断面図

田面である(水田301)。11・12層は炭化植物遺体を多く含む湿地性堆積である。13層は水成層である。

### 第3節 検出遺構と出土遺物

#### 〈第1面〉

1区で畦畔1条(畦畔101)を検出した。

#### 畦畔101

0層を除去した段階で捉えたもので、操車場造成直前の遺構である。規模は上幅0.5~1.0m、下幅約1.4m、高さ約10cmを測り、方向は南北からやや東に振って直線的に伸びる。旧耕土である1層を盛って構築されている。

#### 〈第2面〉

1区で土坑1基(S K201)、溝1条(S D201)、2区で落ち込み1基(S O201)を検出した。時期的にはいずれも近世と考えられる。

#### S K201

平面形は南北に梢円形を呈し、規模は南北1.4m・東西0.8m・深さ約12cmを測る。断面形状は浅い逆台形で、埋土は5B5/1青灰色細粒砂混粘土の単一層である。遺物は古代頃に比定される土師器甕口縁部片の他、時期不明の土師器、須恵器片が少量出土した。時期は明確ではないが、埋土は次項のS D201に類似しており、同じく近世である可能性が高い。

#### S D201

南北からやや東に振って直線的に伸びる溝で、幅0.7~1.4m・深さ10~15cmを測り、底のレベルは北が低い。断面形状は浅い逆台形で、埋土は5B5/1青灰色細粒砂混粘土の単一層である。平面形は南北に梢円形を呈し、規模は南北1.4m・東西0.8m・深さ約12cmを測る。断面形状は浅い逆台形で、埋土は10BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土の単一層である。遺物は近世の陶器摺鉢(備前・丹波)の他、瓦器碗、時期不明の土師器・須恵器片が少量出土した。当溝は、第28次調査1調査区検出のS D101に繋がる可能性がある。

#### S O201

掘方東部の検出で、詳細は不明である。規模は南北4.3m以上・東西0.5m以上・深さ約25cmを測る。埋土は作土である基本層序3層が落ち込む状況で、近世の耕作関連遺構と考えられる。遺物は出土していない。

#### 〈第3面〉

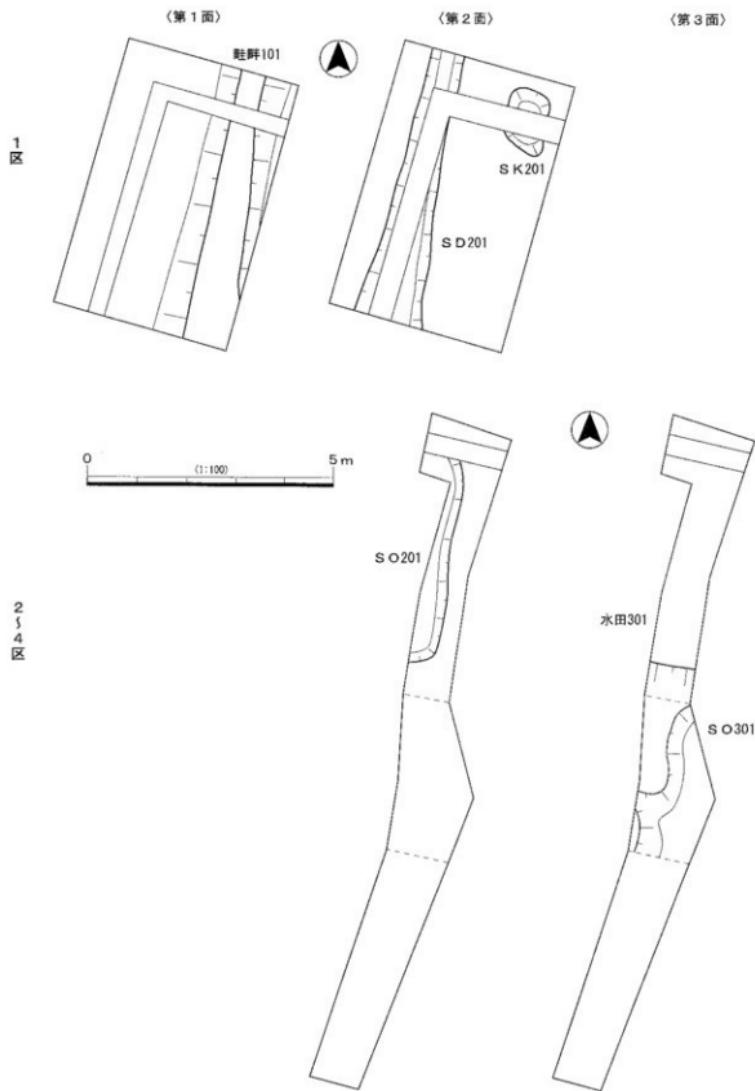
2~4区の8~10層を作土とする水田(水田301)と、上面で落ち込み1基(S O301)を検出した。

#### 水田301

作土のみの確認で、畦畔等は確認できなかった。上面の標高は2区北端がT.P.+6.65m、4区南端が6.8mを測る。時期的には明確ではないが、レベル的にみて第28次調査における第2面南部水田面に相当すると考えられ、飛鳥時代中期以前に廃絶するとされている。

#### S O301

水田301上面は、2区南部で南に落ち込む状況で、これをS O301とした。深さ約10cmを測り、底面には起伏が見られた。耕作に伴う段差・痕跡と捉えられる。埋土は水田301を覆う7層の洪水砂が落ち込んでおり、遺物は出土していない。



第4図 平面図

## 第3章　まとめ

調査では周辺の調査地と同様に、南部で飛鳥時代中期以前の水田遺構、全域で近世頃の遺構を検出した。第28次調査によると、第3面の水田301は、2区北側を東西方向に流れる溝により区画され、その南に展開する水田となっている。また時期的には、南の府センター竜華東西線調査地の成果によると、古墳時代中期に遡る可能性が指摘されている。本調査では第3面以下については遺物がまったく認められなかつたため、時期的に明らかにはできなかつた。水田を覆う洪水砂7層については、同調査で確認されている104河川が、その供給源と考えられている。

近世に比定される第2面のS D201・S O201、第1面の畦畔101については、方向に共通性が認められることから、あまり時期差はないものと考えられる。

### 参考文献

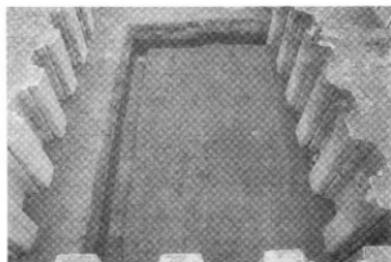
- ・原田昌則・他2003「I 久宝寺遺跡(第28次調査)」「久宝寺遺跡 財団法人八尾市文化財調査研究会報告77」財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・西村 歩・奥村茂輝2004『久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書VI－大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査－』(財)大阪府文化財センター調査報告書第118集』財團法人大阪府文化財センター
- ・亀井 瞳・他2007『久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書VI－寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査他－』(財)大阪府文化財センター調査報告書第156集』財團法人大阪府文化財センター



調査地遠景(北西から)



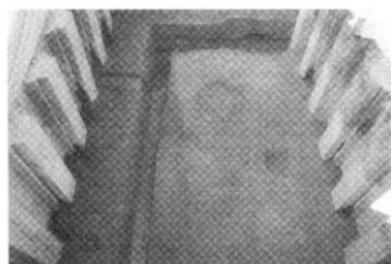
1区機械掘削(南西から)



1区第1面(南から)



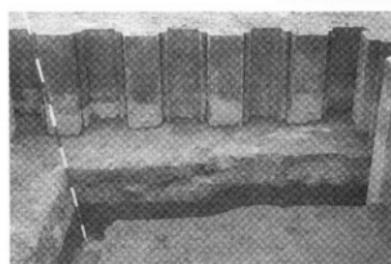
1区第2面掘削状況(南から)



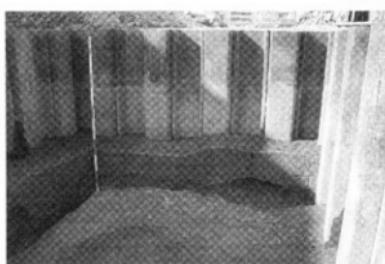
1区第2面(南から)



1区西壁



1区北壁上層



1区北壁下層



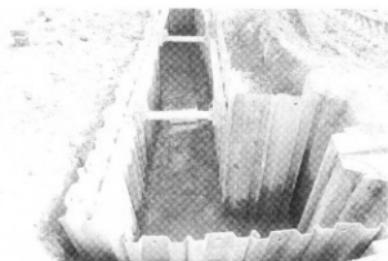
2区機械掘削(北から)



2区第2面(北から)



2区第2面S O201南部(東から)



2区第3面(北から)



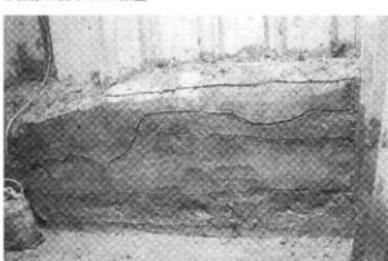
2区第3面S O301(西から)



2区第3面S O301東壁



2区調査状況(南東から)



2区北壁



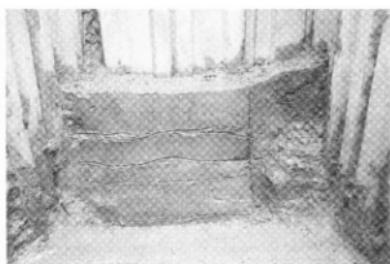
3区機械掘削(北から)



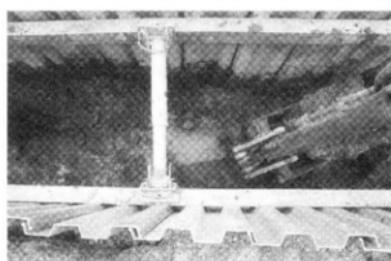
3区第3面(北から)



3区第3面掘削状況(北から)



3区南壁



4区機械掘削(西から)



4区地盤改良状況(北から)



4区調査状況(北から)



4区南壁



IV 成法寺遺跡 第24次調査（S H2011-24）

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市清水町2丁目地内(成法中学校)で実施した、流域貯留浸透施設築造工事に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する成法寺遺跡第24次調査(SH2011-24)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づくもので、八尾市と財団法人八尾市文化財調査研究会の間で、八尾市教育委員会を立会者として締結した契約により、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 調査は当調査研究会 坪田真一が担当した。
1. 現地調査は、平成23年7月21日～7月28日(実働6日)に実施した。調査面積は約41.3m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査には飯塚直世・伊藤静江・芝崎和美・竹田貴子・村井俊子が参加した。
1. 内業整理は下記を行い、現地調査終了後に着手して平成23年10月をもって終了した。  
　　遺物実測・トレースー山内千恵子、その他ー坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本　文　目　次

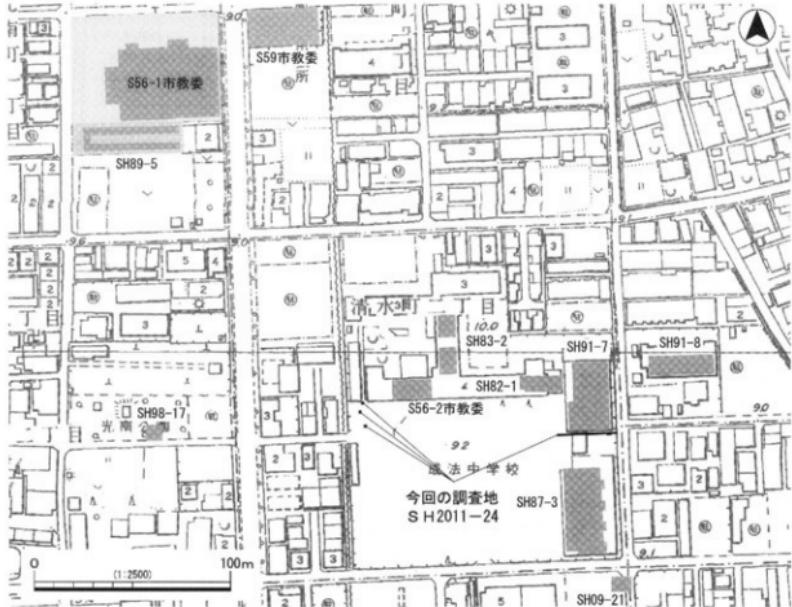
第1章 はじめに.....	29
第2章 調査概要.....	30
第1節 調査方法.....	30
第2節 基本層序と出土遺物.....	30
第3節 検出遺構と出土遺物.....	31
第3章 まとめ.....	35

## 第1章 はじめに

成法寺遺跡は八尾市のほぼ中央部に位置し、現在の行政区画では光南町1・2丁目、清水町1・2丁目、南本町1～4丁目、高美町1・2丁目、松山町1丁目、明美町1丁目、陽光園1丁目がその範囲とされ、東西約1.1km・南北約0.6kmに広がっている。地理的には旧大和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に立地している。周辺では北側で東郷遺跡・八尾寺内町、東側で小阪合遺跡、南側で矢作遺跡・龍華寺跡に隣接し、西側には長瀬川が北流している。

当遺跡は昭和56年5月、八尾市教育委員会が光南町1丁目29番で実施した試掘調査により確認された遺跡で、以降八尾市教育委員会・大阪府教育委員会・当調査研究会により多次にわたる発掘調査が行われている。これらの調査成果から、当遺跡は弥生時代中期からの遺跡であることが知られている。

今回の調査地である市立成法中学校敷地内においては、昭和56年に校舎改築に伴う発掘調査(S56-2)が八尾市教育委員会により実施され、古墳時代～中世の遺物包含層が確認された。その後当調査研究会が、校舎改築や体育館・プール築造に伴う第1～3・7次調査を実施しており、古墳時代初頭～前期・後期、飛鳥～奈良時代の集落構造・中世の生産関連構造等を確認している。さらに東側の第8次調査では、奈良時代初頭の遺物が大量に投棄された溝を検出している。



第1図 調査位置図

## 第2章 調査概要

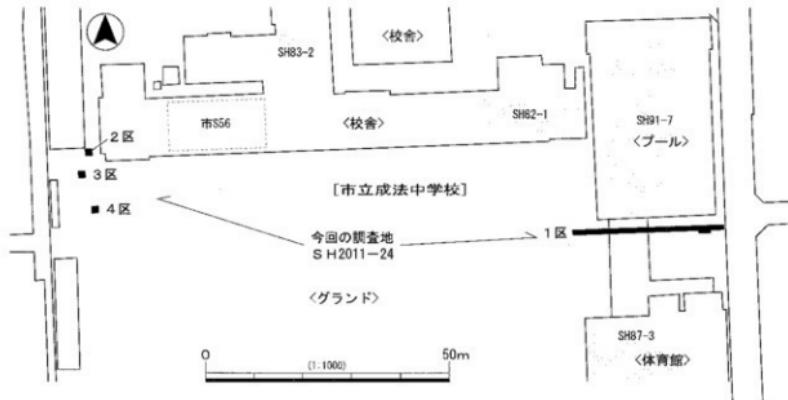
### 第1節 調査方法

今回の調査は市立成法中学校における流域貯留浸透施設築造工事に伴う調査で、当調査研究会が成法寺遺跡内で行った第24次調査(S H2011-24)である。

調査区は4箇所で、東に位置する幅約1.0m×延長約30mの管路部分およびこれに付随する人孔・オリフィス樹部分をまとめて1区、西に位置する集水樹部分3箇所を北から2~4区とした。調査は1区から開始し、完了後2~4区を並行して実施した。掘削にあたっては現地表(約T.P.+9.4m)下約1.2mまでを機械掘削とし、以下の0.2~0.8mを人力掘削により調査を実施した。なお1区の西部では排水溝が、また西端では地中電力線が調査区を横断しており、この部分の調査は実施していない。

標高の基準は、グランド北東部に位置する工事用ベンチマーク(T.P.+9.360m)を使用した。

遺構名は、遺構略号+面+二桁番号とし、1区から順に付した(S D101:第1面の1番目の溝)。



第2図 調査区位置図

### 第2節 基本層序と出土遺物

調査区が離れていることから、1区と2~4区とに分けて基本層序を設定した。

#### 1区

北壁の地層を基本層序とする。0層は校庭造成時の盛土、及び搅乱。1~3層は全域で見られた。1層は旧耕土、2層も近世頃の作土である。3層も搅拌された作土で、時期は中世頃に比定される。2・3層からは奈良時代以降の土師器・須恵器細片が少量出土した。4・5層は中央以西で見られ、Fe斑・Mn斑を多く含む搅拌された作土で、S O101埋土に相当する。6層以下は東部で確認した。6~8層は搅拌された作土で、4・5層に類似するが砂粒が優勢となる。8層は耕作関連遺構の可能性もある。6~8層からは奈良時代頃の土師器・須恵器、中世の瓦器軽片が

出土した。9層の砂層は洪水砂であろう。10層は搅拌された作土で、奈良時代頃の土器・瓦が出土している(10~13)。11層のシルト質粘土は水成層と思われる。上面には9層の砂が入る踏み込み状の窪みが見られる。12~14層は水成層で、14層の砂層は河川堆積と考えられる。12層上部は搅拌され土壤化しており、上面が第2面である。

#### 2~4区

0層は盛土・搅乱。1層は旧耕土で、3区ではS O102の埋土となっている。2~4層は4区にのみ遺存している。2層はブロック状の作土で、3層のブロックを多く含む。時期は近世頃であろう。3層の砂層は水成層で、洪水砂の可能性がある。4層は搅拌された作土である。5層は3・4区で見られた搅拌された作土で、須恵器片、瓦器挽片が出土した。上面が第1面である。

### 第3節 検出遺構と出土遺物

#### 〈第1面〉

1区で井戸1基(S E101)、溝10条(S D101~110)、落ち込み1箇所(S O101)、2~4区では5層上面で溝1条(S D111)、落ち込み1箇所(S O102)を検出した。

#### S E101

1区東部の南壁際で、円形を呈する掘方の北部を検出した。詳細は不明であるが、掘方の直径は2m程度と思われ、深さは1.2m以上である。掘方埋土はブロック状の2層を確認した。構築面は2層下面で、時期は近世に比定されるものであり、類例から見て枠は井戸瓦積みである可能性が高い。南の第3次調査では南方約60m地点において同じく近世井戸が確認されている。

#### S D101~110

1区で検出した溝群で、北東~南西方向に平行する。位置的に西部溝群(S D101~105)、東部溝群(S D106~110)に分けられる。埋土は細粒砂~中粒砂混シルト質粘土の単層である。いずれも耕作関連遺構であろう。

西部溝群は3層上面で検出した。規模は幅20~40cm・深さ10~20cmを測り、断面逆台形を成す。遺物はS D102・103・105から出土しており、古墳時代~中世頃の土師器片の他、S D105からは12世紀末頃の瓦器挽片が出土した。

東部溝群は7層上面(S D106~109)、下面(S D110)で検出した。規模は幅20~70cm・深さ10~30cmを測り、断面逆台形を成す。遺物はS D106~108から土師器片・須恵器片が出土した。

#### S D111

4区で検出した南北方向の溝で、規模は幅約22cm・深さ約6cm・長さ0.8m以上を測る。埋土はシルト質粘土の単層である。耕作関連溝と考えられる。遺物は土師器片が1点出土した。

#### S O101

1区中央部分を占める落ち込みで、7層をベースとする。溝群と同様の北東~南西方向の肩から4・5層が西に落ち込んでおり、深さは30cm以上を測る。耕作段差と捉えられる。遺物は時期不明の土師器片、奈良時代の須恵器片、平瓦片が出土した。

#### S O102

3区で検出したもので、5層をベースに1層が西・南に落ち込んでいる。耕作段差と捉えられ、層位的に時期は近世である。

〈第2面〉

1区東部で溝1条(S D201)を検出した。

S D201

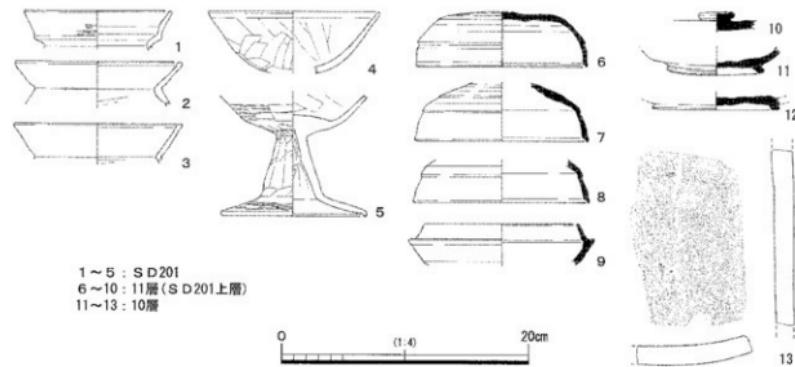
12層上面で検出した北西－南東方向に延びる溝で、規模は幅約2.0m、深さ約60cmを測る。断面逆台形を呈し、埋土は南壁で6層(C1～C6層)を確認した。シルト質粘土基調の層相で、自然堆積層と考えられ、C1・C4層は炭を多く含んでいる。

遺物は古墳時代前期(布留式期新相)に比定される古式土師器(1～5)が出土した他、溝上部に落ち込む状況の11層からは古墳時代中期末～後期前半の土器(6～9)が出土していることから、この時期まで溝の形状を有していた可能性がある。1～3は甕で、1は山陰系の複合口縁甕、2・3は布留式甕である。4は鉢と考えられる。調整はヘラナデである。5は高杯で、脚端部を下方に巻き込む。調整は脚柱部を面取り状に削り、杯部には外面に粗くヘラミガキを施す。口縁部外面、及び脚裾部内面に黒斑を有する。6～8は須恵器杯蓋で、TK47型式(5世紀末)に、9は杯身で、TK10型式(6世紀中葉)に比定される。

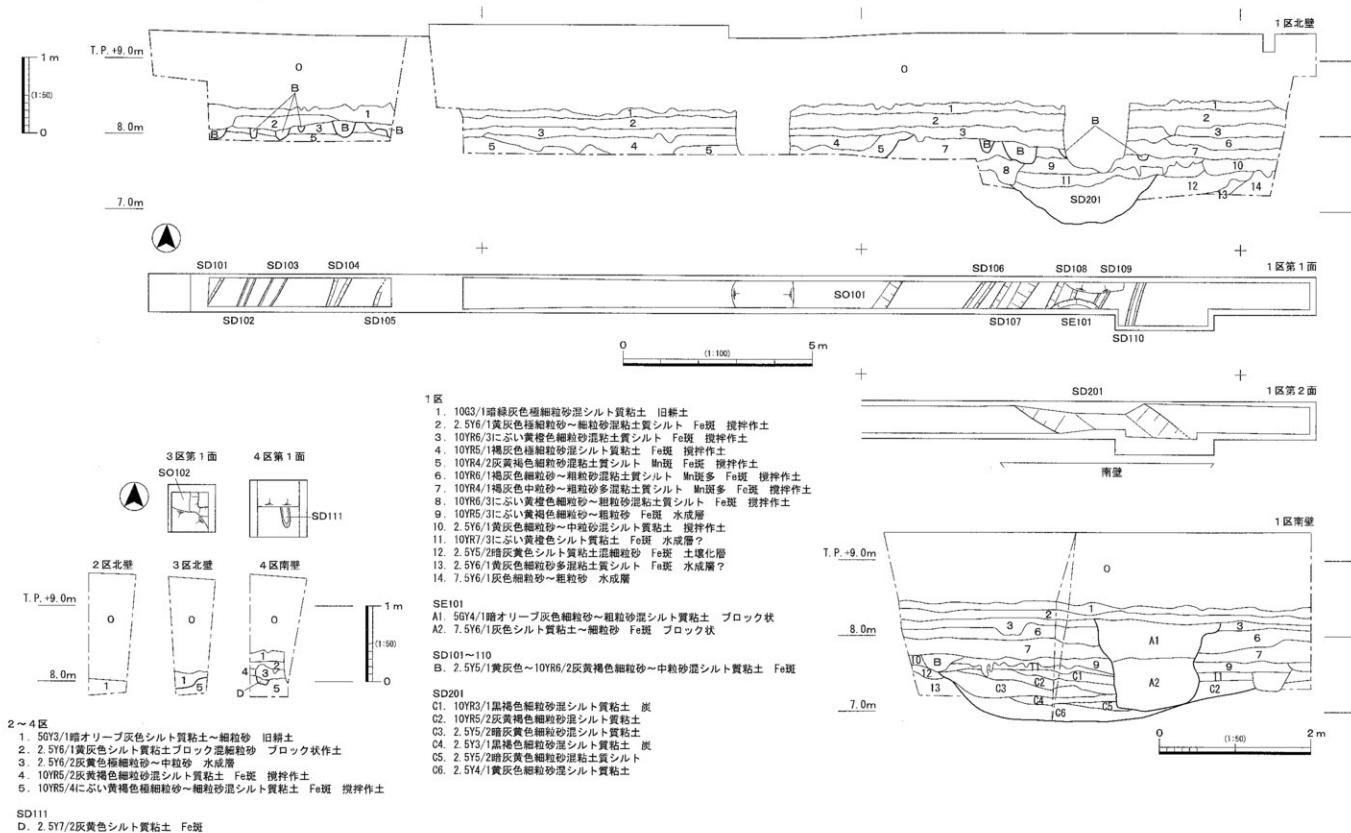
なお当溝は位置的に、また埋土や出土遺物から見て北の第7次調査S D402に繋がる溝であり、延長約25m以上を測ることが確認された。

〈1区10層出土遺物〉

10～13を図化した。10は須恵器杯蓋で、奈良時代に比定される。11・12は須恵器杯身で、11が飛鳥時代、12が奈良時代に比定される。11は高台が歪んでいる。13は桶巻き作りと思われる平瓦で、凹面布目、凸面ナデである。



第3図 出土遺物



第4図 平断面図(平面図:1/100。断面図は1区南壁:1/50、他は水平:1/100、垂直:1/50。)

## 第3章　まとめ

今回の調査では、古墳時代前期、中世～近世の遺構・遺物を検出した。遺物量はコンテナ1箱である。

1区第1面の耕作溝群については、北の第7次調査、南の第3次調査においても、同一方向及び直交する方向の溝群を検出している。時期的にはS D110が奈良時代頃に遡る可能性があるが、概ね中世頃と考えられよう。

第2面では古墳時代前期(布留式期新相)の溝S D201を検出した。上部の包含層からは古墳時代中期～後期前半の土器が出土しているが、北の第7次調査においても同様の状況を確認している。北西部の第2次調査では古墳時代後期の掘立柱建物等を検出していることから、当地周辺まで該期の集落が広がっていた可能性が高いといえる。また周辺の調査で確認されている飛鳥～奈良時代の遺構は検出されなかったが、作土中からは該期の土器や瓦が出土しており、後世の耕作によって削平されたものと考えられる。

西の2～4区は調査深度も浅く、中世～近世の耕作関連遺構を検出したに留まった。

### 参考文献

- ・山本 昭・他1983「付載 昭和55・56年度調査一覧表」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報 1980・1981年度』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋1991「第2章 第1次調査(S H82-1)発掘調査報告」「成法寺遺跡(第1次調査～第4次調査・第6次調査報告書)」財団法人八尾市文化財調査研究会報告33』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋1991「第3章 第2次調査(S H83-2)発掘調査報告」「成法寺遺跡(第1次調査～第4次調査・第6次調査報告書)」財団法人八尾市文化財調査研究会報告33』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋1991「第4章 第3次調査(S H87-3)発掘調査報告」「成法寺遺跡(第1次調査～第4次調査・第6次調査報告書)」財団法人八尾市文化財調査研究会報告33』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一1996「I 成法寺遺跡第7次調査(S H91-7)」「成法寺遺跡 財団法人八尾市文化財調査研究会報告51」財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一1996「II 成法寺遺跡第8次調査(S H91-8)」「成法寺遺跡 財団法人八尾市文化財調査研究会報告51」財団法人八尾市文化財調査研究会



1区周辺(南西から)



1区機械掘削(東から)



1区S D 101~103北壁



1区S D 104・105北壁



1区西部第1面(東から)



1区S O 101北壁



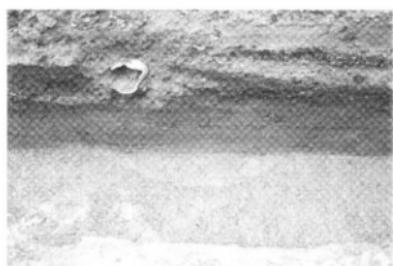
1区西部調査状況(東から)



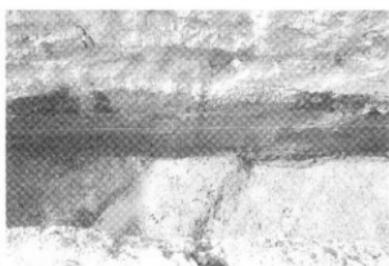
1区東部第1面検出状況(東から)



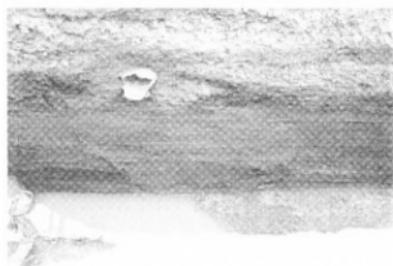
1区東部第1面(西から)



1区S E 101検出状況(北から)



1区S D 106・107(南から)



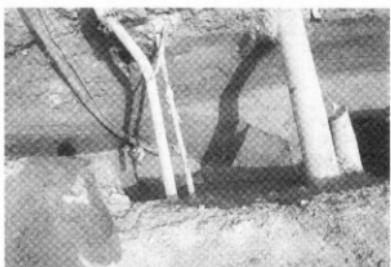
1区S E 101南壁



1区東部人力掘削状況(北西から)



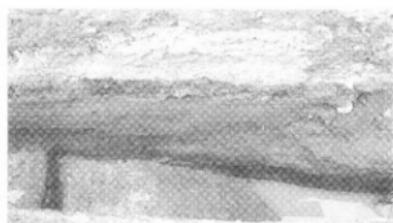
1区東部第2面(西から)



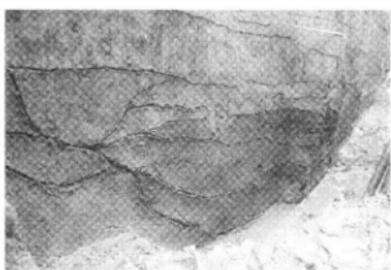
1区S D201(南から)



1区S D201(北東から)



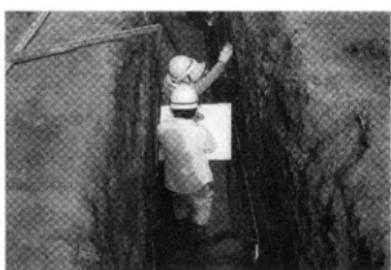
1区S D201北壁



1区S D201南壁



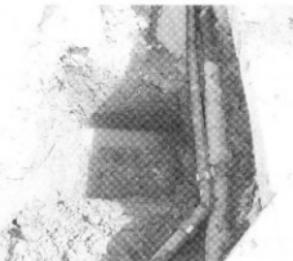
1区S D201北壁内土器出土状況



1区西部調査状況(東から)



2～4区周辺(南から)



2区全景(南から)



3区機械掘削(南から)



4区南壁



3区北壁



4区第1面(北から)

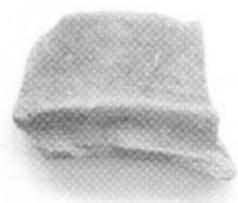


3区第1面(西から)



4区入力掘削状況(東から)

図版  
5  
出土遺物



1



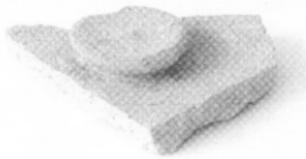
9



2



3 10



5



11



12



6  
8



7 13

V 太子堂遺跡 第15次調査 (T S 2011-15)

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市南太子堂二丁目4番7号で実施した龍華コミュニティセンター及び地域図書館等複合施設建設に伴う遺構確認調査報告書である。
1. 本書で報告する太子堂遺跡第15次調査(T S 2011-15)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づくもので、八尾市と財団法人八尾市文化財調査研究会の間で、八尾市教育委員会を立会者として締結した契約により、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成23年10月3日～10月5日(外業実働3日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約80m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、飯塚直世・伊藤静江・梶本潤二・芝崎和美・竹田貴子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後随時実施し、平成24年3月31日に完了した。  
　　遺物実測－伊藤・芝崎、遺物トレース－市森千恵子、その他－坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本　文　目　次

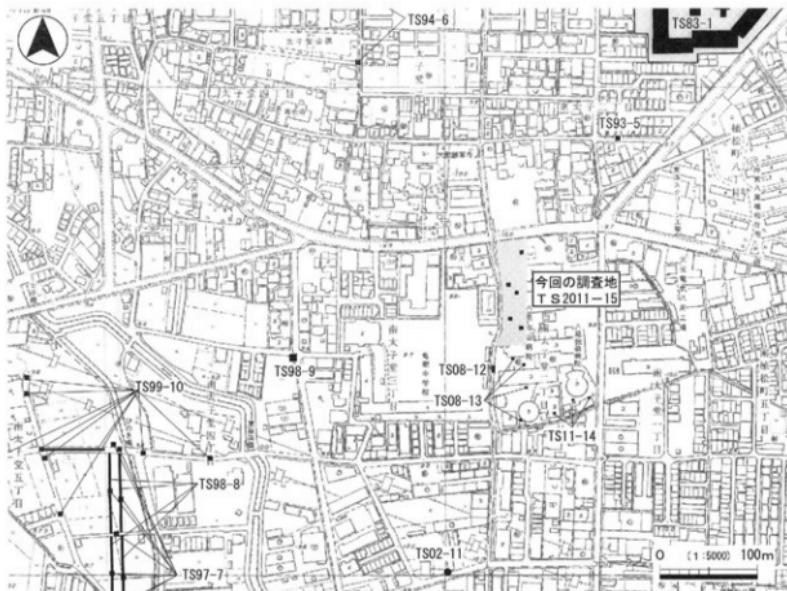
第1章 はじめに.....	41
第2章 調査概要.....	42
第1節 調査の方法と経過.....	42
第2節 基本層序と出土遺物.....	42
第3節 検出遺構と出土遺物.....	42
第3章 まとめ.....	46

## 第1章 はじめに

太子堂遺跡は、八尾市の南西部に位置する古墳時代前期～近世の複合遺跡で、地理的には、遺跡内を東から西に横断する旧大和川の主流であった平野川の自然堤防上に立地している。現在の行政区画では太子堂3～5丁目、東太子2丁目、南太子堂1～6丁目がその範囲となっている。当遺跡は、北～西で跡部遺跡、東で植松遺跡に隣接する他、周辺では西に亀井遺跡、東に植松南遺跡、南に木の本遺跡が存在している。

当遺跡は昭和58年3月、八尾市教育委員会が東太子2丁目で実施した試掘調査において、古墳～奈良時代の遺物包含層が確認されたことにより認識された遺跡である。そしてこの結果を受けて、同年6～10月に同地点で当調査研究会による第1次調査(TS 83-1)が行われ、奈良時代の集落構造を中心に、古墳時代中期～中世の遺構・遺物を検出している。

今回の調査地は遺跡範囲の東部に位置する。周辺の調査を概観すると、西部の第9次調査で平安時代後期以降に埋没する古平野川を検出しておらず、その南西部の第7・8・10次調査で平安～鎌倉時代の居住域、南東部の第11次調査で同時期の生産域を確認している。また南の第13次調査では、北部の調査区で奈良～平安時代の溝を検出している。



第1図 調査位置図

## 第2章 調査概要

### 第1節 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市南太子堂二丁目4番7号で実施した龍華コミュニティセンター及び地域図書館等複合施設建設に伴う遺構確認調査で、当調査研究会が太子堂遺跡内で行った第15次調査(TS 2011-15)である。調査地は八尾市立病院跡地北西部にある。

調査区は5箇所(約4.0×4.0m: 北から1~5区)で、総面積は約80m<sup>2</sup>を測る。

調査は南の5区から開始し、現地表(T.P.+10.0m前後)下3.0~3.4mについて、機械・人力掘削併用で実施した。調査では調査地西側に位置する八尾市街区補助点(4A035: T.P.+10.131m)を標高の基準とした。

### 第2節 基本層序と出土遺物

調査地は八尾市立病院跡地にあたり、解体時の搅乱・盛土等を0層とした。3~5区では搅乱が現地表下3.0m以上に及んでいた。

#### 1区

1層は近世の洪水砂である。近世陶磁器を含んでいる。2・3層は作土で、時期は中世~近世であろう。3層から中世頃の土師器皿片が出土した。4層は径5cm程度までの細粒砂~細礫を多く含む層相で、洪水砂と考えられる。時期不明の土師器片をわずかに含む。5層は河川堆積である。奈良時代頃の磨耗した土師器・須恵器片を少量含む。

#### 2・3区

1層は1区5層にあたる河川堆積で、出土遺物も同様である。2層は湿地性堆積で、正確なレベルは確認できなかった。1・2区でやや層相が異なるものの一連の地層と捉えられる。

#### 4区

1層は2層の土壤化部分と捉えられる。2・3層は河川堆積で、瓦器椀の細片1点が見られたことから時期は中世以降である。4・5層は湿地性堆積、6層は河川堆積である。6層から時期不明の土師器片が1点出土した。

#### 5区

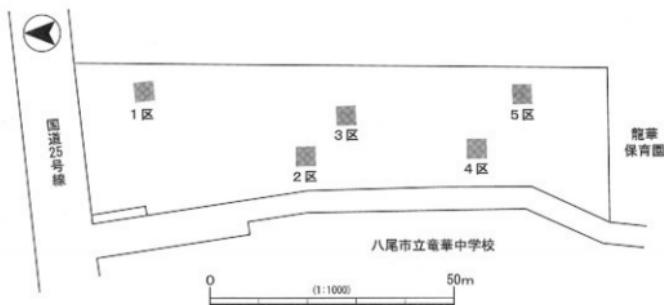
1層は作土の可能性がある。2層は1~3区と同様の河川堆積である。

### 第3節 検出遺構と出土遺物

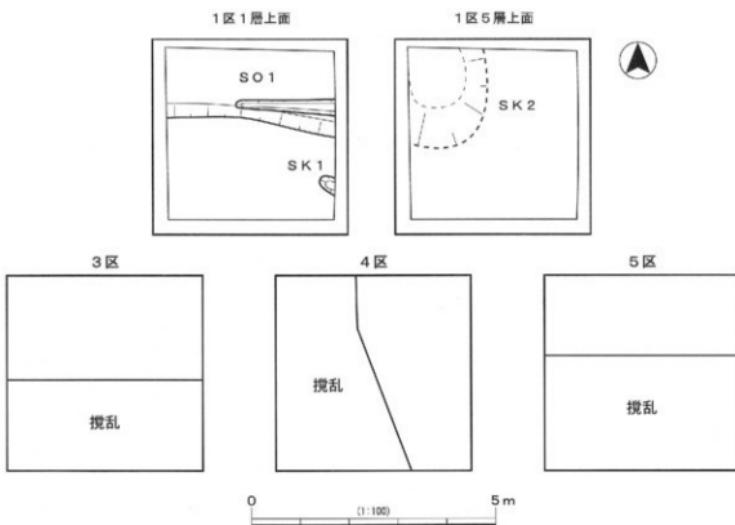
1区1層上面で落ち込み1基(SO1)、土坑1基(SK1)、5層上面で土坑1基(SK2)、4区1層上面でピット1個(SP1)を検出した。

#### SO1

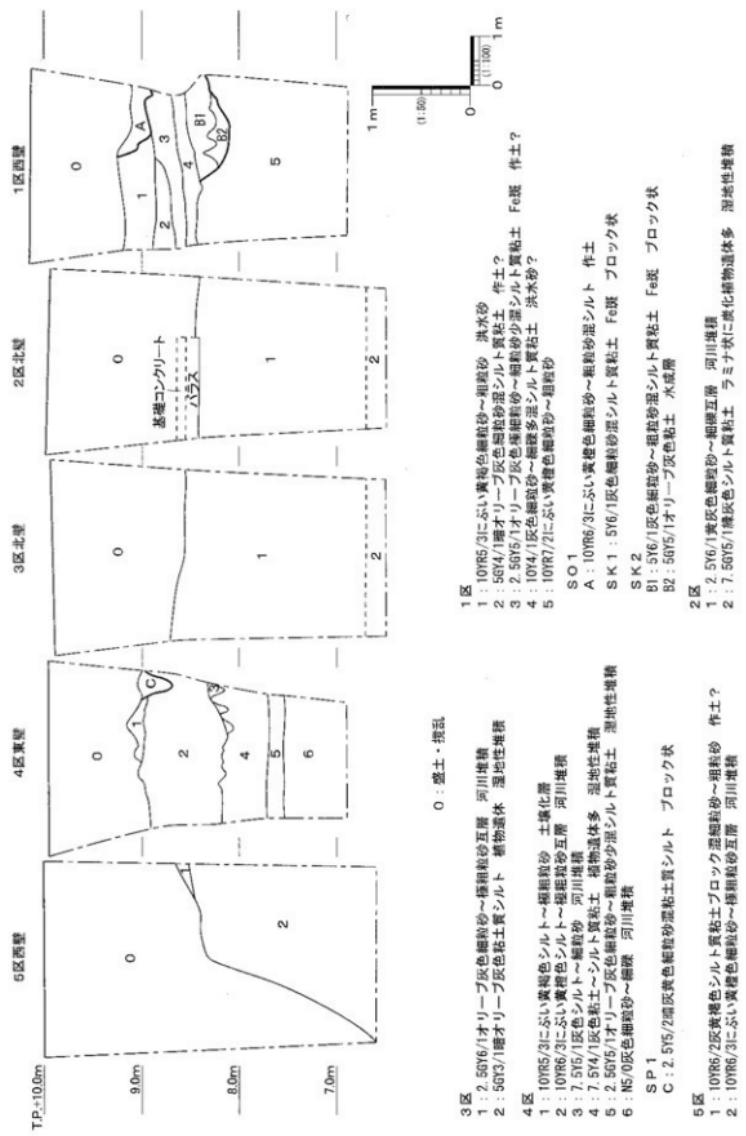
東西方向の直線的に延びる肩から北に落ち込むもので、深さ約35cmを測る。底部では肩に並行する溝が見られた。埋土はブロック状の單一層で作土と考えられることから、遺構の性格としては耕作関連の段差と捉えられる。近世の平瓦片や、巻き上げられた奈良時代頃の須恵器、中世の瓦器椀片等が出土した。



第2図 調査区位置図



第3図 平面図



第4図 断面図

## SK 1

1区南東部で検出した。規模は東西約40cm・南北約30cm・深さ12cmを測る。埋土はブロック状の単一層である。遺物は出土していない。

## SK 2

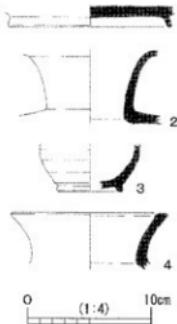
1区北西部で検出した。平面的には捉えられなかつたが、規模は南北2.2m・東西1.8m程度に復元でき、深さは45cmを測る。埋土は2層からなり、上層はブロック状、下層は自然堆積と思われる粘土層である。遺物は出土していない。

## SP 1

4区南東隅に位置し、東壁1層上面で確認した。規模は南北55cm程度・深さ約35cmを測る。埋土はブロック状の単一層である。遺物は出土していない。

## 河川出土遺物

須恵器4点を図化した。いずれも著しく磨耗しており、調整等は不明確である。1は杯身底部である。2は壺口縁部で、口縁端部は上方に短く立ち上がるものと推定される。口縁部内面に灰が被る。3は小形の壺類の底部である。底部内面の一部に自然釉が掛かる。4は壺類口縁部で、口縁端部は内傾する面を成す。これらは概ね奈良時代頃に比定される。1は1区5層、2~4は3区1層出土。



第5図 出土遺物

## 第3章　まとめ

今回の調査では、調査地一帯が奈良時代頃に埋没する河川上に位置していることを確認した。この河川は東部の調査地で確認されている古墳時代後期～古代の古平野川と考えられる。河川上面は後世の搅乱により削平されている調査区が多かったが、1・4区では中世頃に比定される遺構や作土が遺存していた。東部の調査地では約T.P.+7.0m以下で弥生時代～古墳時代前期の遺構を検出されているが、今回の調査では河川堆積からの湧水が著しく、対応層の存在等は明らかにはできなかった。

### 参考文献

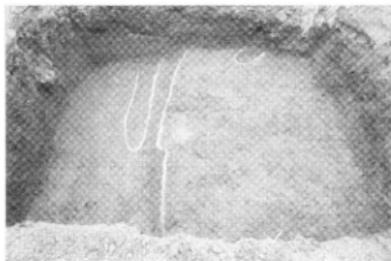
- ・岡田清一・井西貴子1993「I 第1次調査(TS83-1)」『太子堂遺跡〈第1次調査・第2次調査報告書〉』財団法人八尾市文化財調査研究会報告36』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助2000「V 太子堂遺跡第7次調査(TS97-7)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告66』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋2000「VI 太子堂遺跡第8次調査(TS98-8)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告66』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子2000「X 太子堂遺跡第9次調査(TS98-9)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告65』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・森本めぐみ2001「XX 太子堂遺跡第10次調査(TS99-10)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告67』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・川瀬貴子・降矢哲男2007「植松遺跡 大阪府営八尾植松(第1期)住宅(建て替え)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」(財)大阪府文化財センター調査報告書第164集』(財)大阪府文化財センター
- ・黒須亜希子2010「植松遺跡2 大阪府営八尾植松(第2期)住宅(建て替え)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」(財)大阪府文化財センター調査報告書第208集』財団法人大阪府文化財センター
- ・西村公助2006「III 太子堂遺跡第11次調査(TS2002-11)」『財团法人八尾市文化財調査研究会報告85』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2009「II 太子堂遺跡第13次調査(TS2008-13)」『財团法人八尾市文化財調査研究会報告128』財团法人八尾市文化財調査研究会



調査地(北から)



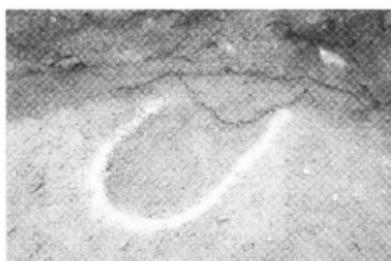
1区機械掘削(北から)



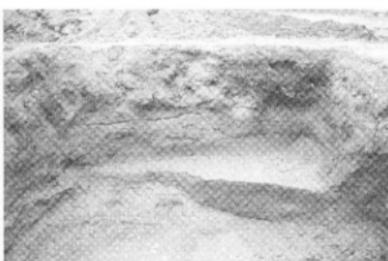
1区1層上面(西から)



1区4層上面(西から)



1区SK 1(西から)



1区西壁



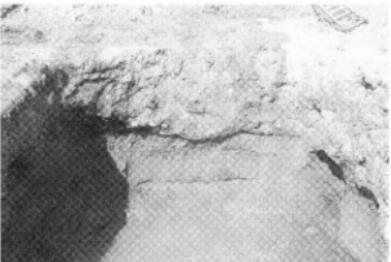
2区北壁上部



2区北壁下部



3区(南東から)



3区北壁



3区1層上面(西から)



4区2層上面(北から)



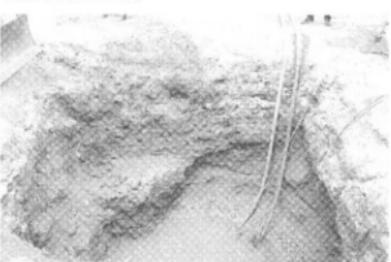
4区5層上面(北から)



4区調査状況(西から)



5区北壁



5区西壁

VI 矢作遺跡 第8次調査（YH2011-8）

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市安中町八丁目6番23号で実施した、安中保育所改築に伴う埋蔵文化財遺構確認調査報告書である。
1. 本書で報告する矢作遺跡第8次調査(YH2011-8)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づくもので、八尾市と財団法人八尾市文化財調査研究会の間で、八尾市教育委員会を立会者として締結した契約により、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 調査は当調査研究会 坪田真一が担当した。
1. 現地調査は、平成23年8月10・11日(実働2日)に実施した。調査面積は約20.0m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査には飯塚直世・梶本潤二・芝崎和美・田島宣子が参加した。
1. 内業整理は下記が行い、現地調査終了後に着手して平成23年8月31日をもって終了した。  
　　遺物実測－永井律子、その他－坪田。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本　文　目　次

第1章 はじめに.....	49
第2章 調査概要.....	50
第1節 調査方法.....	50
第2節 基本層序と出土遺物.....	50
第3節 検出遺構と出土遺物.....	50
第3章 まとめ.....	52

# 第1章 はじめに

矢作遺跡は八尾市のほぼ中央部に位置し、現在の行政区画では高美町3～6丁目、南本町5～8丁目、松山町2丁目、明美町2丁目、安中町6～8丁目がその範囲とされ、東西約0.9km・南北約1.0kmに広がっている。地理的には旧大和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に立地している。周辺では北側で成法寺遺跡・東側で小阪合遺跡・中田遺跡・西側で龍華寺跡に隣接している。

当遺跡は昭和56年、八尾市教育委員会が南本町5丁目で実施した遺構確認調査により確認された遺跡である。そして昭和61年には、市教委により最初の本格的な発掘調査が高美町3丁目において実施され、古墳時代前期の溝、後期の掘立柱建物等が検出された。以降市教委・当調査研究会により多次にわたる発掘調査が行われており、これらの調査成果から、当遺跡は弥生時代からの遺跡であることが確認されている。

今回の調査地の北側では、市営安中住宅建設替えに伴う発掘調査(YH2007-7)を当調査研究会が平成19年度に実施しており、平安時代の集落遺構や中世～近世の生産関連遺構を検出している。また南側では平成18年度に遺構確認調査(2006-188)を実施しており、中世～近世の長瀬川によると思われる氾濫堆積を確認している。



第1図 調査地位置図

## 第2章 調査概要

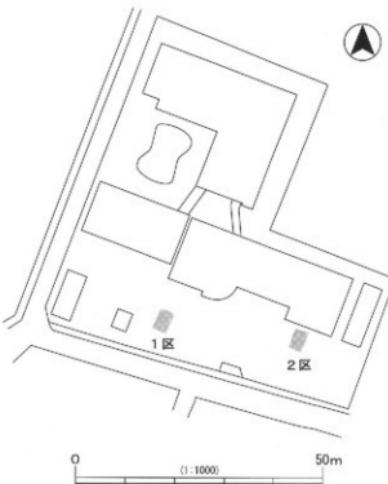
### 第1節 調査方法

今回の調査は八尾市立安中保育所改築に伴う埋蔵文化財遺構確認調査で、当調査研究会が矢作遺跡内で行った第8次調査(YH2011-8)である。

調査区は東西に並ぶ2箇所(西から1・2区)で、2区から調査を実施した。

調査にあたっては現地表(約T.P.+11.1m)下1.1~1.2mまでを機械掘削とし、以下約1.6mまでを人力掘削により調査を実施した。また約3.0mまでについては機械掘削により下層確認調査を実施し、断面観察・遺物採集を行った。

標高の基準には、調査地南西部約90mに位置する三級基準点相当の八尾市街区多角補助点〈LA319 : T.P.+11.185m〉を使用した。



第2図 調査区位置図

### 第2節 基本層序と出土遺物

0層は盛土、及び搅乱。1層は旧耕土である。1区2層、2区3・4層も搅拌された作土である。4層から伊万里焼片が出土しており、近世頃の作土である。下面が第1面。1区5層、2区6・7層も搅拌された作土で、6層から瓦器羽釜片、土師器片、陶器片が少量出土しており、時期は中世末~近世に比定される。1区では下面が第2面である。1区2・5層については砂粒が優勢で縮まりの良い層相であり、島畑盛土・作土の可能性が高い。8層以下は両区で見られた。基本的に河川堆積で、上部の8層は搅拌され土壤化した部分にある。9・10・13~15層は流水堆積。11・12層は植物遺体を含む黒褐色の粘土質シルト~シルトで、いわゆるビート層と捉えられ、12層は搅拌が認められる。9層から13世紀頃の東播系須恵器鉢、奈良時代頃の土師器杯、須恵器片が、11層から土師器片、黒色土器片、瓦器碗片が出土した。

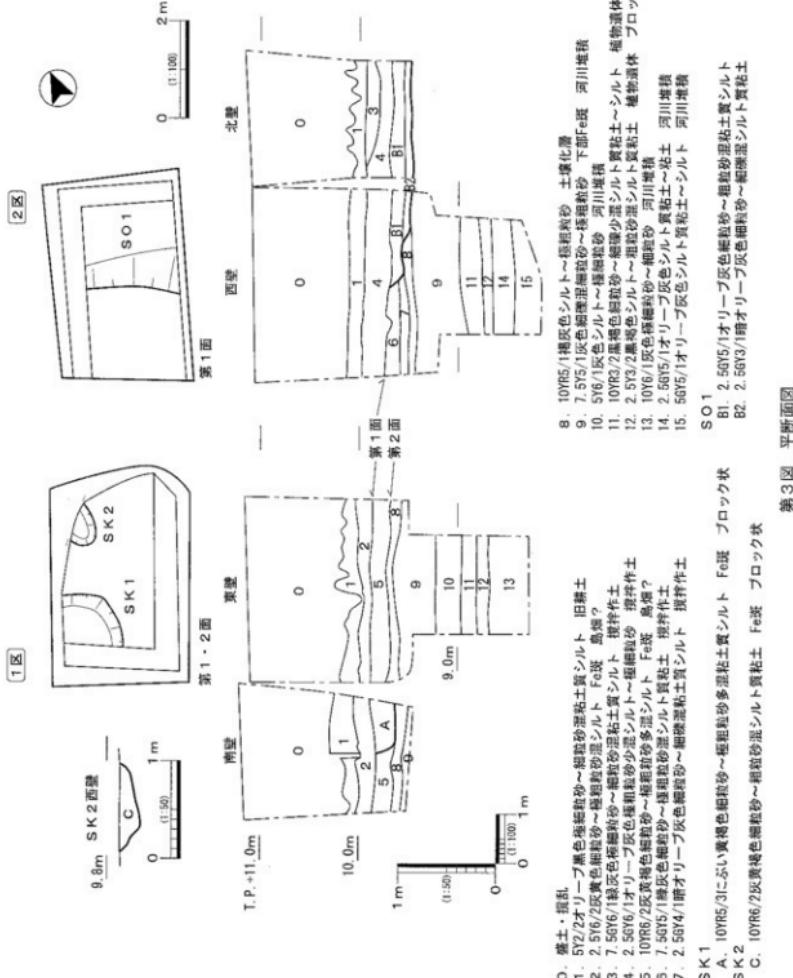
### 第3節 検出遺構と出土遺物

#### 〈第1面〉

1区で土坑1基(SK1)、2区で落ち込み1箇所(SO1)を検出した。

#### SK1

1区南西部の5層上面で検出した土坑で、西・南は調査区外に至るため詳細は不明である。規



模は南北1.0m以上・東西1.2m以上・深さ約25cmを測る。断面逆台形を呈し、埋土はブロック状の単層(A)である。遺物は出土していない。

#### S O 1

2区4層下面で検出した落ち込みで、6層をベースに東西方向の肩から北に落ち込んでいる。深さ約20cmを測り、埋土はブロック状の2層(B1・B2)からなる。耕作段差と捉えられ、埋土は作土にあたると考えられる。

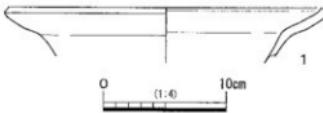
遺物は土師器鍋(1)や、時期不明の土師器片が少量出土した。1は大和系焰烙鍋で、口径26.0cmを測る。外面は煤けており使用品である。時期は16世紀末以降に比定される。

#### 〈第2面〉

1区西部で土坑1基(S K 2)を検出した。

#### S K 2

8層上面で検出した土坑で、西側は調査区外に至る。検出部分の平面形は橢円形を呈し、規模は南北80cm以上・東西60cm以上・深さ約20cmを測る。断面逆台形を呈し、埋土はブロック状の単層(C)である。遺物は出土していない。



第4図 S O 1出土遺物

## 第3章 まとめ

今回の調査では、古代～近世の遺構・遺物を検出した。遺物量はコンテナ1箱である。

第1・2面で検出した土坑・落ち込みについては、耕作関連遺構と考えられ、北部第7次調査地(YH2007-7)で確認している中世～近世の耕作地が広がっていることを確認した。

8層以下の河川堆積については、南部を南東～北西に流下する長瀬川の旧流路と考えられるが、11・12層の存在から、古代末頃には一時期沼沢地状の様相で、中世頃に埋没すると考えられる。北部調査地では平安時代中期～後期の居住域を示す遺構を検出しているが、この居住域は当地までは及んでいないと考えられよう。

#### 参考文献

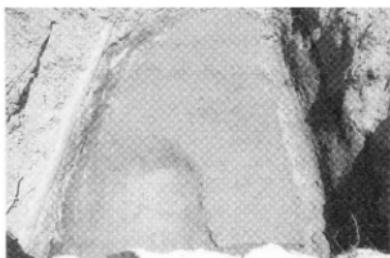
- ・河村恵理2008『矢作遺跡 第7次調査 財團法人八尾市文化財調査研究会報告120』財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・菊井佳弥2007「2. 平成18年度4～12月の調査 表2 矢作遺跡(2006-188)」「八尾市内遺跡平成18年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告55 平成18年度国庫補助事業」八尾市教育委員会
- ・小森俊寛2005『京から出土する土器の編年研究－日本律令的土器様式の成立と展開、7～19世紀－』京都編集工房



1区調査地(東から)



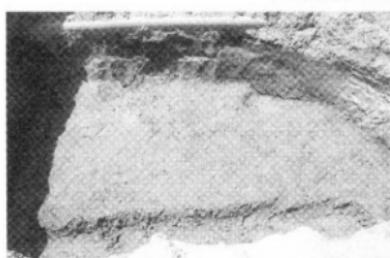
1区機械掘削(南から)



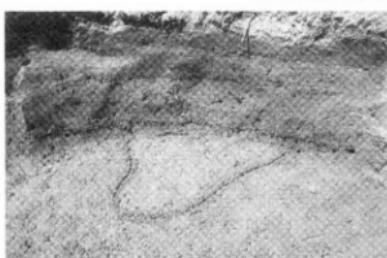
1区第1面(南から)



1区調査状況(北から)



1区第2面(東から)



1区SK2(東から)



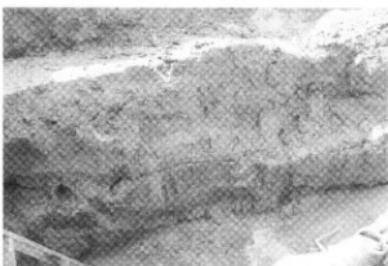
1区東壁



1区南壁



1区下層(南から)



1区下層西壁



2区調査地(西から)



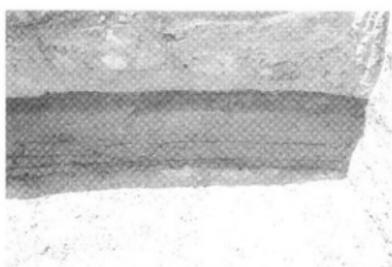
2区機械掘削(南から)



2区北壁



2区第1面(東から)



2区SO1西壁



2区人力掘削状況(北から)

# 報告書抄録

ふりがな	おおたいせき きのもといせき きゅうほうじいせき ジョウほうじいせき たいしういせき やはぎいせき
書名	太田遺跡 木の本遺跡 久宝寺遺跡 成法寺遺跡 太子堂遺跡 矢作遺跡
調査名	
シリーズ名	財団法人八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	138
編著者名	坪田真一
編集機関	財団法人八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目58-2 TEL・FAX 072-994-4700
発行年月日	西暦2012年3月31日

所取遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおたいせき 太田遺跡 (第12次調査)	おおさかみやおしむちよめ 大阪府八尾市太田3丁目	27212	68	34度 35分 31秒	135度 35分 19秒	20111222 ～ 20111226	約12.25	記録保存調査 遺構確認調査
きのもといせき 木の本遺跡 (第21次調査)	おおさかみやおしむちよめ 大阪府八尾市木の本3丁目	27212	35	34度 36分 22秒	135度 35分 20秒	20101124 ～ 20101217	約10.3	記録保存調査 防災公園街長 整備
さくばはうじいせき 久宝寺遺跡 (第79次調査)	おおさかみやおしむちよめ 大阪府八尾市麗華町2丁目	27212	23	34度 37分 18秒	135度 34分 56秒	20110419 ～ 20110614	約38	記録保存調査 防波堤等
ここうはうじいせき 成法寺遺跡 (第24次調査)	おおさかみやおしむちよめ 大阪府八尾市清水町2丁目	27212	73	34度 37分 22秒	135度 36分 07秒	20110721 ～ 20110728	約41.3	記録保存調査 流域貯留浸透 施設
たいしういせき 太子堂遺跡 (第15次調査)	おおさかみやおしむちよめ 大阪府八尾市南太子堂2丁目	27212	62	34度 36分 45秒	135度 35分 21秒	20111003 ～ 20111005	約80	記録保存調査 遺構確認調査
やはぎいせき 矢作遺跡 (第8次調査)	おおさかみやおしむちよめ 大阪府八尾市安中町8丁目	27212	74	34度 36分 57秒	135度 36分 13秒	20110811 ～ 20110812	約20	記録保存調査 遺構確認調査

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構・地層	主な遺物	特記事項
太田遺跡 (第12次調査)	集落	弥生時代後期 古墳時代中期末～中世 近世	溝 ビット・溝 水田・畦畔		
木の本遺跡 (第21次調査)	集落	古墳～奈良時代 古代～中世	足跡群 畦畔状遺構・土坑	土師器・須恵器	
久宝寺遺跡 (第79次調査)	集落	飛鳥時代以前 近世	水田 畦畔・溝・落ち込み		
成法寺遺跡 (第24次調査)	集落	古墳時代前期 中世	溝 耕作溝	布留式土器	
太子堂遺跡 (第15次調査)	集落	古代	自然河川		
矢作遺跡 (第8次調査)	集落	中世～近世	土坑・落ち込み		

要約	太田遺跡では弥生時代後期の溝が検出され、西の八尾南遺跡との関連が考えられる。成法寺遺跡では周辺の調査地と同様に古墳時代前期の溝を検出した。久宝寺遺跡では飛鳥時代以前、木の本遺跡・成法寺遺跡では古代～中世、矢作遺跡では中世～近世の水田や生產関連遺構を検出した。太子堂遺跡で確認した自然河川は、古墳時代～古代の古平野川と考えられる。
----	--

財団法人八尾市文化財調査研究会報告138

- I 太田遺跡 (第12次調査)
- II 木の本遺跡 (第21次調査)
- III 久宝寺遺跡 (第79次調査)
- IV 成法寺遺跡 (第24次調査)
- V 太子堂遺跡 (第15次調査)
- VI 矢作遺跡 (第8次調査)

発行 平成24年3月  
編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会  
〒581-0821  
大阪府八尾市幸町四丁目58番地2  
TEL・FAX 072-994-4700

印刷 梶近畿印刷センター  
表紙 レザック66 <260Kg>  
本文 ニューエイジ <70Kg>  
図版 マットアート <110Kg>

